取扱説明書

Clavinova®

CLP-950
CLP-950C
CLP-930

YAMAHA

このたびは、ヤマハクラビノーバCLP-950/950C/930をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。CLP-950/950C/930の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

取扱説明書(本書)について

取扱説明書(本書)は、「準備」「本編」「付録」の3部構成になっています。

- **準　　　備**　最初にお読みください。
- **本　　　編**　クラビノーバの使い方を詳しく説明しています。
- **付　　　録**　クラビノーバをMDP10（「伴奏くん」）と組み合わせて楽しむ方法、その他の資料を掲載しています。

「パソコン活用マニュアル こんなことできます!クラビノーバ+パソコン」について

クラビノーバとパーソナルコンピューターを接続してどんなことができるのか、また接続に必要なものや接続の仕方などについて、わかりやすく説明したオンラインマニュアル(PDF)を、インターネットのホームページ(下記)に掲載しております。閲覧/ダウンロードしてぜひご活用ください。
クラビノーバホームページ　http://www.yamaha.co.jp/product/cl/
マニュアルライブラリー(電子楽器/XG)のクラビノーバのページに掲載してあります。初回だけ登録していただくことが必要です。http://www2.yamaha.co.jp/manual/emi/index_j.html

表記上の決まり

【　　】の意味

【　　】：　パネル上にあるボタン類を示します。この場合、ボタン、スライダー、ジャック（端子）といった言葉は省略します。たとえば、マスターボリュームのスライダーは、文章中で【MASTER VOLUME】と表記します。

⇨、➡ の意味

○○○ ⇨ ※※※　○○○の操作を行なった結果、※※※の状態になることを示しています。(操作の結果を示します。)

○○○ ➡ ☆☆☆　○○○の操作を行なったあと、☆☆☆の操作をすることを示しています。(操作の手順を示します。)

(用語集)、(Point)、(注意)、(?)の意味

- (用語集)クラビノーバに関する用語や、専門用語を説明しています。
- (ワンポイント説明)機能の詳細や基本設定、補足事項を説明しています。
- (ご注意いただくこと)操作するときにご注意いただく内容、できない内容を説明しています。
- (クエスチョン)〜するには? 〜すると? といった目的や、機能・操作上の疑問にお答えしています。

※ パネルのイラストは、CLP-950を使用します。
※ この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
※ 本文中では、CLP-950とCLP-950Cを代表してCLP-950と表記します。また、各モデル名を省略し、「クラビノーバ」と表記することがあります。

目　次

準　備

本　編

付　録

目的別目次

安全上のご注意 ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。
注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。
お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

記号表示について
この機器の裏側に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

⚠ **注 意** 感電の恐れあり キャビネットをあけるな ⚠	注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または 巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、⚠は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、⚠は注意が必要なことを示しています。

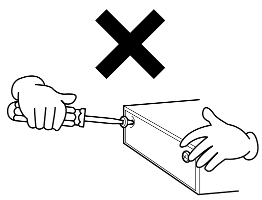
⃠ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

＊お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告 この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
感電や火災、または故障の原因になります。

電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なにおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

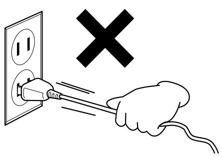
手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

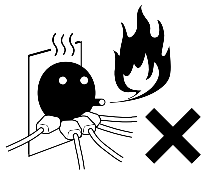
⚠注意 この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。



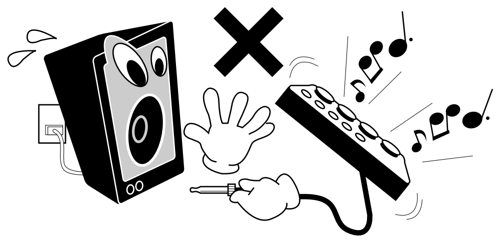
タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。

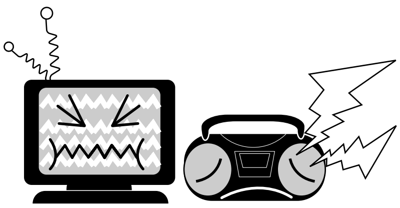
準備

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小(0)にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき、適切な音量にする。
感電または機器の損傷のおそれがあります。



直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。

テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布でふいてください。

本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

キーカバーで指などをはさまないように注意する。また、キーカバーのすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。

キーカバーや鍵盤のすき間から金属や紙片などを落とさない。
感電、ショート、発火や故障などの原因になります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

本体を壁につけない。
換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。

組み立てる前に、必ず本書または別紙の組み立て方の説明をよくお読みください。
手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

イスについて

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。
このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。

イスには二人以上ですわらない。
イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。

(高低自在イスの場合)
イスにすわったままでイスの高さを調節しない。
イスにすわったままイスの高さを調節すると、高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。

イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。
ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

メモリーバックアップについて

この機器は、バックアップの設定(P39)によって、各種の設定内容を、電源を切ったあと約1週間保持することができます。約1週間以上過ぎるとバックアップされている内容は消えてしまいますので、少なくとも1週間以内に数分間は電源を入れてください。

作成したデータの保存について

作成したデータは、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、ヤマハMIDIデータファイラーMDF3などの外部機器に保存することをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

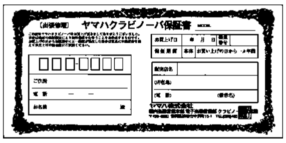
楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

* この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。
*CLP-950/950Cは、家電汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しています。

準備

付属品（お確かめください）

▼ 保証書



▼ ご愛用者カード



▼ 取扱説明書（本書）



▼ クラビノーバで弾く名曲50選（楽譜集）

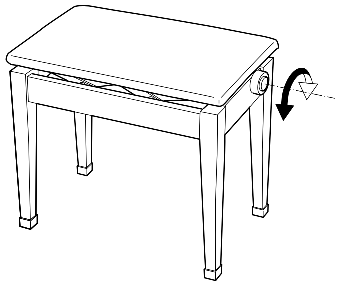


▼ ヘッドフォン

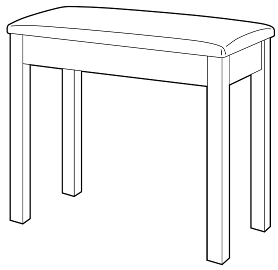


▼ 高低自在イス BC-15 (CLP-950/950C)

ご自分の演奏しやすい高さに調節してお使いいただけます。



▼ 専用イス (CLP-930)



クラビノーバのお手入れ

お手入れは、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布でふいてください。鍵盤の頑固な汚れには「エレクトーン・クラビノーバ用鍵盤クリーナー」をお使いください。
「エレクトーン・クラビノーバ用鍵盤クリーナー」　S:\400(税別価格)　H:\350 (税別価格)

ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しないでください。また、クラビノーバの上にビニール製品やプラスチック/ゴム製品などを置かないでください。
クラビノーバのパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。

クラビノーバのお取り扱いについて、ご使用の前に必ず、P5の「安全上のご注意」をお読みください。

調律について
クラビノーバでは、調律は必要ありません。

ご引っ越しの際は
通常の荷物と一緒にお運びいただけます。組み立てた状態でも、組み立てる前の部品に分解した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。

準備

クラビノーバでこんなことができます

ヤマハクラビノーバCLP-950/930は、ヤマハ独自のサンプリング音源システム「AWMダイナミックステレオサンプリング」(CLP-950)、「AWMステレオサンプリング」(CLP-930)による豊かな音色と、鍵域により鍵盤の重さを変えてグランドピアノのタッチ感に近付けた「グレードハンマー鍵盤」による自然な弾き心地を備えた電子ピアノです。
GRAND PIANO 1(CLP-930ではGRAND PIANO)の音色は、フルコンサートグランドピアノから新たにサンプリングしました。
CLP-950のGRAND PIANO 1の音色では、鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしており(ダイナミックサンプリング)、さらに、ピアノの響板の響きを加える「サウンドボードリバーブ」(P19)、ダンパーペダルを踏んだときの響板や弦の共鳴音をサンプリングした「サスティンサンプリング」(P18)、鍵盤を離したときの微妙な発音をサンプリングした「キーオフサンプリング」を採用し、ぜいたくな音作りを行なっています。

弾く鍵盤を変えずに、他の楽器や歌う人の声の高さに合わせて、キー(調)を簡単に変えることができます。
(P21)

本体にピアノ50曲の演奏データが入っています。これらを鑑賞するだけでなく、便利な練習機能を使って練習することができます。また、ご自身の演奏を録音/再生できます。
(P15〜17,25〜30)

音色ごとのデモ曲を聞くことができます。
(P14)

音程を微調整したり、メトロノームの音量を設定したりなどの各種の便利な機能を利用できます。
(P31〜39)

鍵盤を左右の領域に分けて、別々の音色で演奏することができます。(CLP-950)
(P23)

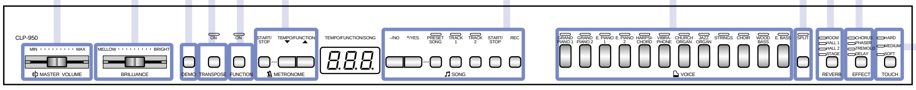
音の明るさを調節できます。(CLP-950)
(P19)

メトロノームの機能を利用できます。
(P24)

グランドピアノをはじめとした12種類(CLP-930では8種類)の音色をお楽しみいただけます。
(P18)

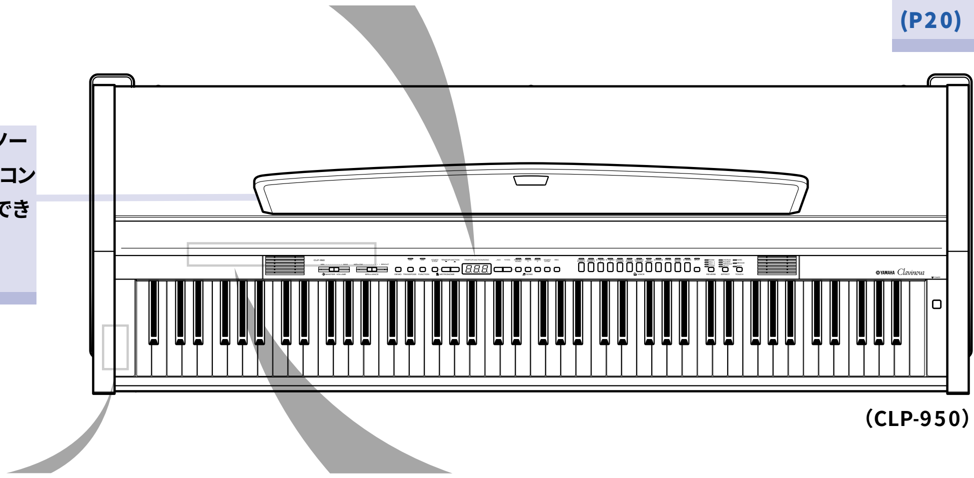
音に残響(リバーブ)や、効果(エフェクト)をかけることができます。
(P19)

音量を調節できます。
(P10)



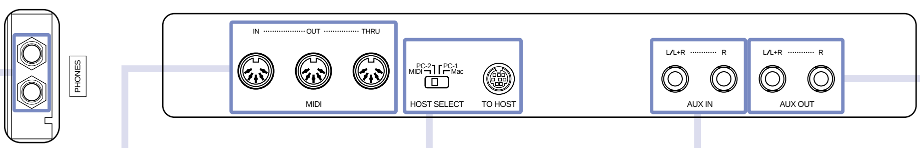
弾く強さに対する音の強弱の付き方(タッチ感)を調節することができます。
(P20)

譜面立てをはずすと、クラビノーバの上にノート型パーソナルコンピューターなどを置くことができます。
(P9)



(CLP-950)

ヘッドフォンで練習ができます。
(P10)



MIDI機器を接続して、MIDIを活用することができます。
(P37〜38)
→MIDIについて(P40)

パーソナルコンピューターと接続して、パーソナルコンピューター用の音楽ソフトを楽しむことができます。
(P42〜45)

外部機器の音をクラビノーバから出すことができます。(P41)
→MDP10(「伴奏くん」)
(P48,56)
→EMR1(P56)

カセットテープレコーダーなどを接続して、ご自身の演奏を録音できます。
(P41)

準備

ご使用前の準備

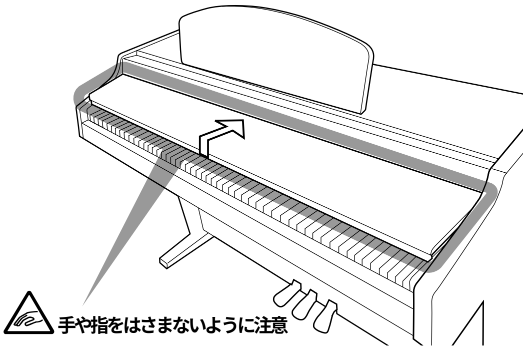
キーカバーについて

開けるとき

少し持ち上げて、奥へ押し込みます。

閉めるとき

手前に引いて、静かに降ろします。



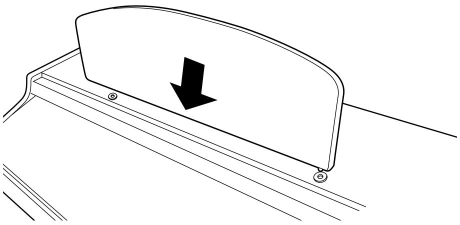
キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようご注意ください。

キーカバーを開けるとき、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

譜面立てについて

立てるとき

図のように、クラビノーバ上面の穴に差し込んで立てます。

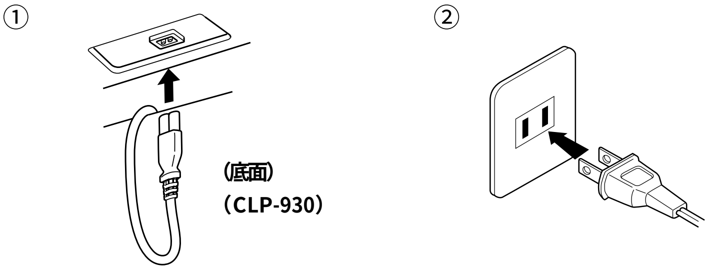


※ 譜面立てをはずすと、クラビノーバの上にノート型パーソナルコンピューターなどを置くことができます。

電源を入れる

1. 電源コードを接続する

最初に本体側のプラグを差し込み、(CLP-950では、組み立て手順の中で既に差し込まれています。)次にコンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込みます。

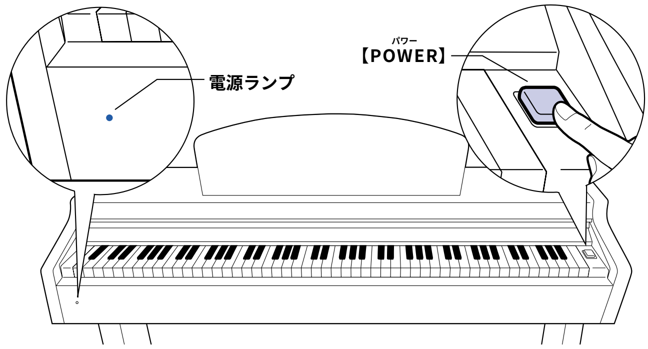


準備

2. 電源を入れる

本体パネル右の【POWER】を押すと、電源が入ります。

⇨ 本体パネル中央のディスプレイに表示が表れます。また、クラビノーバ前面左の電源ランプが点灯します。



ディスプレイ



通常はテンポが表示されます。

電源を切るときは、もう一度【POWER】を押します。

⇨ ディスプレイの表示が消え、クラビノーバ前面左の電源ランプも消灯します。

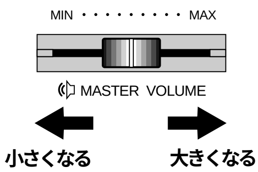
POWER＝電源

Point 電源ランプについて…

クラビノーバのご使用後、電源を切り忘れてキーカバーを閉めてしまった場合、電源ランプの点灯が、電源が入ったままであることを知らせてくれます。

音量（ボリューム）調節

本体パネル左の【MASTER VOLUME】を左右に動かして調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



MASTER VOLUME＝全体の音量

Point 【MASTER VOLUME】で、【PHONES】の出力レベルやAUX INからの入力レベルも調節できます。

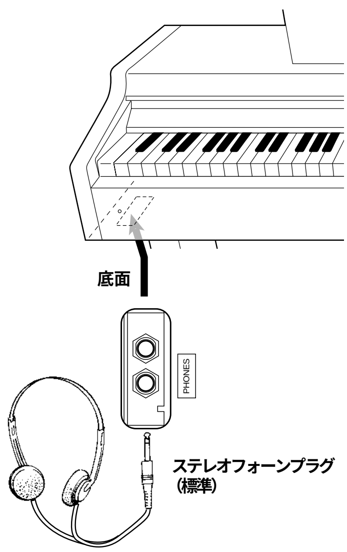
ヘッドフォンを使う場合

ヘッドフォンを【PHONES】端子に接続して使います。

ヘッドフォンを接続するとクラビノーバ本体のスピーカーからは音が出ません。

また、【PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。（1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。）

! 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。
聴覚障害の原因になります。



Point 別売ヘッドフォン…

YAMAHAヘッドフォン HPE-160
（税別価格：5,500円）

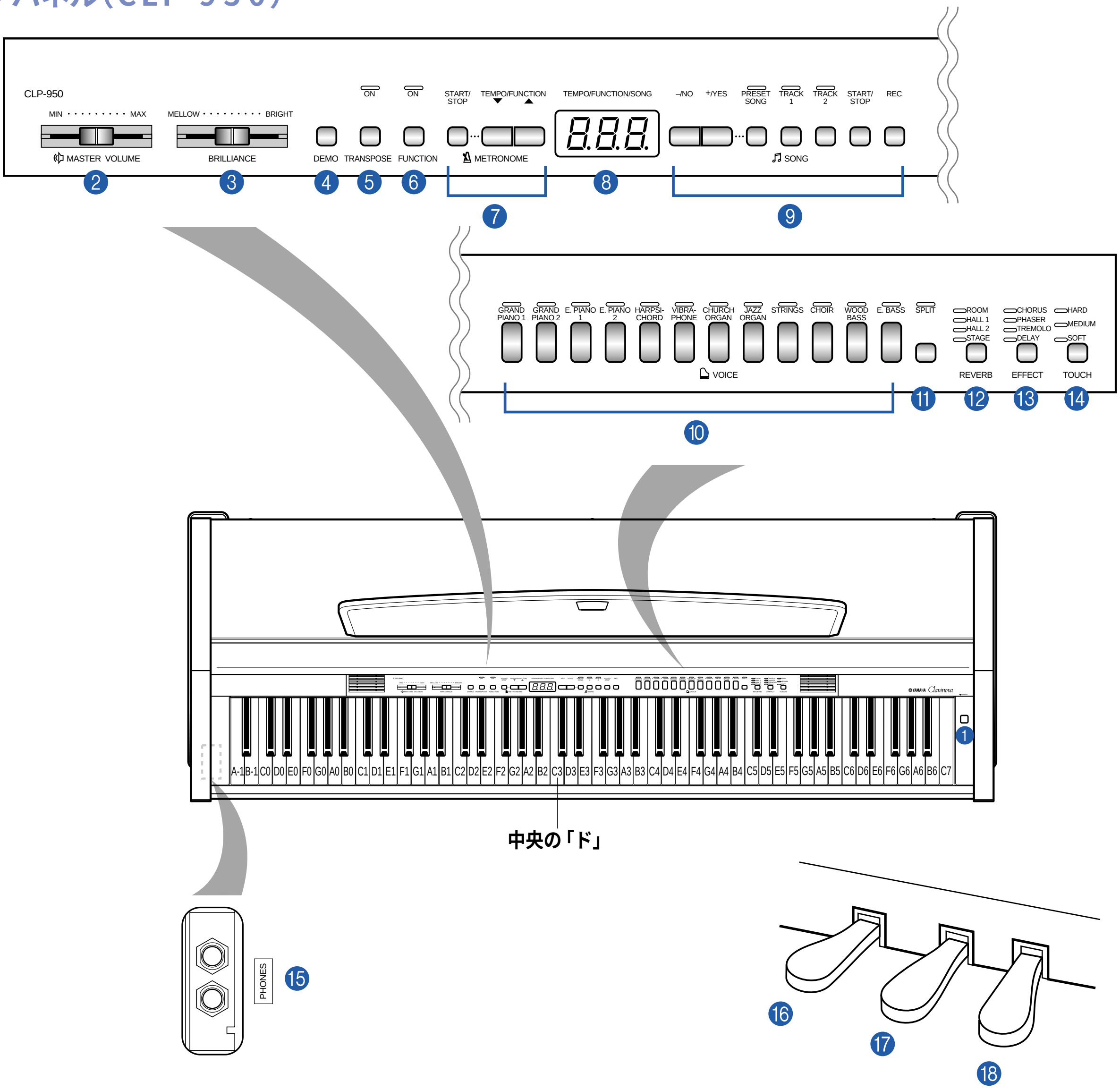
準備

本　編

● クラビノーバの使い方を詳しく説明しています。

各部の名前

トップパネル（CLP-950）



❶【POWER】 ･････････････････････････ P10

❷【MASTER VOLUME】 ･･････････････ P10

❸【BRILLIANCE】（CLP-950） ･･････････ P19

❹【DEMO】 ･･････････････････････････ P14

❺【TRANSPOSE】 ･････････････････････ P21

❻【FUNCTION】 ･･････････････････ P31～39

❼METRONOME【START/STOP】

【TEMPO/FUNCTION▼▲】 ･･････････ P24

❽ディスプレイ ･･････････････････････ P13

❾【–/NO】／【+/YES】

【PRESET SONG】

【TRACK 1】

【TRACK 2】

SONG【START/STOP】

【REC】 ･･････････････ P15～17、P25～30

❿音色ボタン ･････････････････････････ P18

⓫【SPLIT】（CLP-950） ････････････････ P23

⓬【REVERB】 ･････････････････････････ P19

⓭【EFFECT】 ･････････････････････････ P19

⓮【TOUCH】 ･････････････････････････ P20

⓯【PHONES】 ････････････････････････ P10

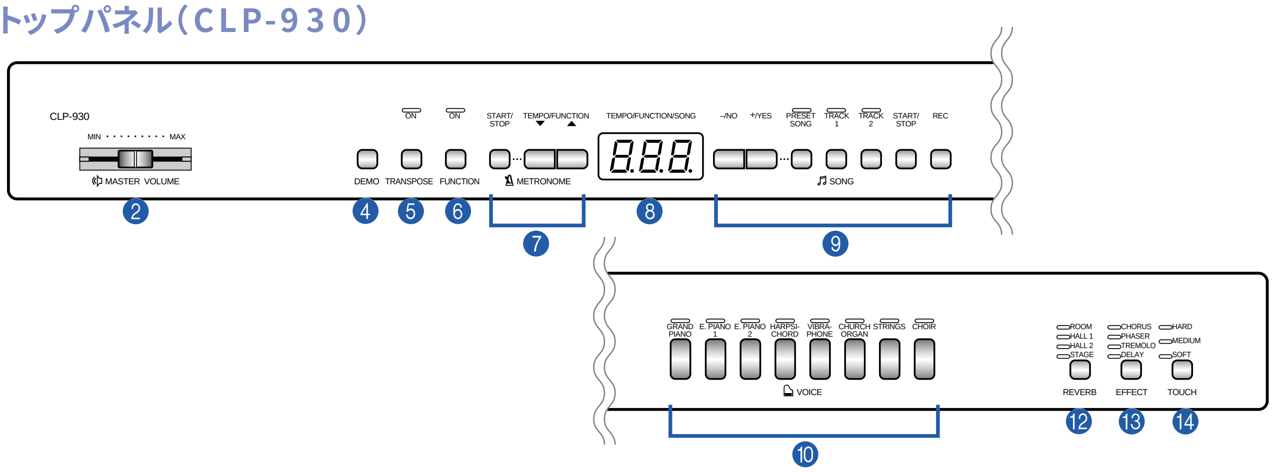
⓰左のペダル（ソフトペダル） ･･････････ P18

⓱まん中のペダル（ソステヌートペダル） ････ P18

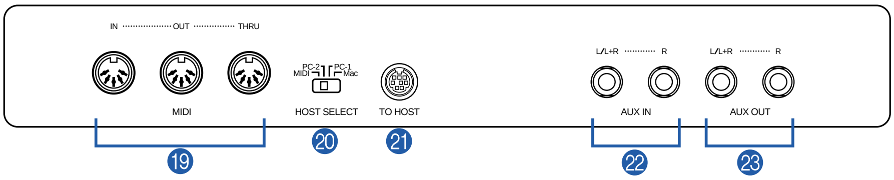
⓲右のペダル（ダンパーペダル） ･････････ P18

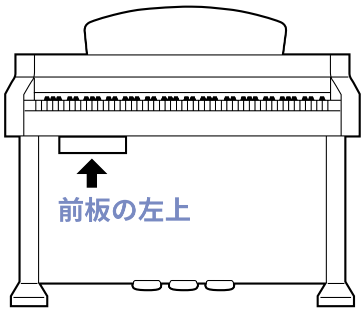
本編

トップパネル（CLP-930）

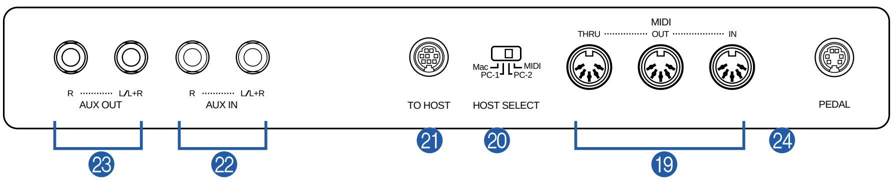


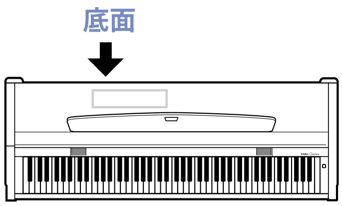
端子パネル（CLP-950）





端子パネル（CLP-930）

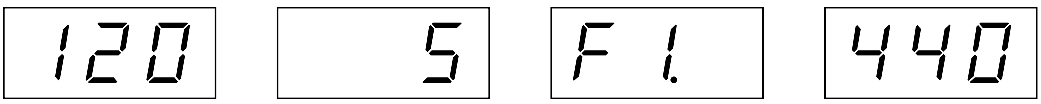




⑲ MIDI【IN】【OUT】【THRU】 ········· P40～45
⑳ HOST SELECT ·················· P41～45
㉑【TO HOST】 ····················· P41～45
㉒ AUX IN【R】【L/L+R】 ················· P41
㉓ AUX OUT【R】【L/L+R】 ··············· P41
㉔【PEDAL】（CLP-930） ············· P42、58

ディスプレイ

・操作の結果をパネル中央のディスプレイで確認しながら進めてください。
・場面に応じて、たとえば下記のような表示になります。

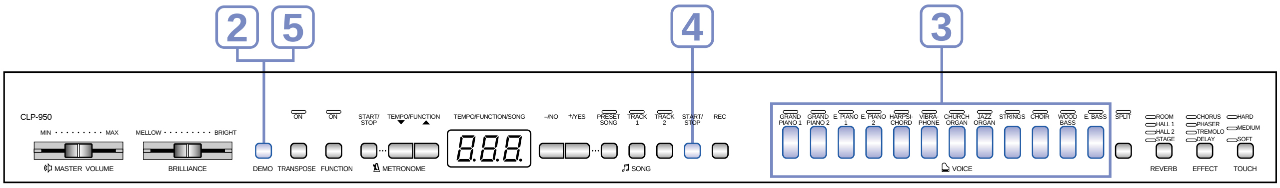


テンポ（通常の表示）　ピアノ50曲の曲番号　ファンクション項目番号　各種設定値

本編

デモ曲を聞く

クラビノーバには、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。



操 作

1 電源を入れる

（まだ電源を入れていない場合）【POWER】を押します。

⇨ 電源が入ります。

音量はデモ曲を再生しながらでも調節できますが、【MASTER VOLUME】を中程まで上げておいてください。

2 デモ曲モードに入る

【DEMO】を押します。

⇨ 音色ボタンのランプが流れるように点滅します。

3 選曲と再生スタート

聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。（音色ボタンを押さずにSONG【START/STOP】を押すと、GRAND PIANO 1（CLP-930では、GRAND PIANO）の曲が再生されます。）

⇨ デモ曲の再生がスタートします。その後、ストップするまで順番に別の音色のデモ曲が連続して再生されます。

音量の調節

デモ曲を聞きながら【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

4 再生ストップ

再生をストップする場合は、SONG【START/STOP】か再生中の音色ボタン（再生中は点滅しています）を押します。

5 デモ曲モードを抜ける

【DEMO】を押します。

⇨ 音色ボタンのランプの流れるような点滅が止まります。

Point デモ曲の曲名リスト…
音色ごとのデモ曲には、各音色の特徴がよくわかる曲が選ばれています。デモ曲一覧をP50に掲載しています。

デモ曲の再生データはMIDI送信されません。また、デモ曲モード中はMIDI受信を行ないません。

ピアノ曲モード（P15）のとき、録音モード（P25）のとき、曲の再生中（P29）は…
デモ曲モードには入れません。

モードとは…
ある機能を実行できる状態を意味します。ここでは、デモ曲を再生できる状態のことを「デモ曲モード」と呼んでいます。

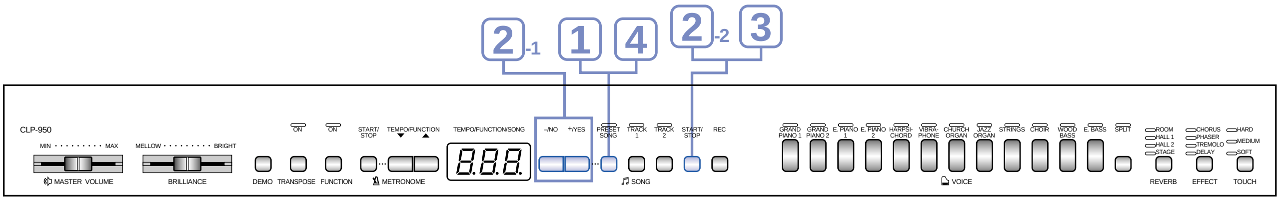
デモ曲では、テンポの調節や「片手練習」（P16）、「部分練習」（P17）はできません。

Point 【BRILLIANCE】（CLP-950）（P19）を切り替えることもできます。

本編

ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く

クラビノーバには、ピアノ50曲の演奏データが入っています。付属の『クラビノーバで弾くピアノ名曲50選』の楽譜集には、ピアノ50曲の楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。



操 作

1 ピアノ曲(プリセットソング)モードに入る

【PRESET SONG】を押します。

⇨【PRESET SONG】のランプが点灯します。

2 選曲と再生スタート

2-1 【－/NO】【＋/YES】を押して、聞くピアノ曲を選びます。



曲番号

1〜50：聞く曲番号を指定して1曲だけ再生するモードです。

ALL：ピアノ50曲を順番に、ストップするまで連続再生するモードです。

rnd：ピアノ50曲を順不同に、ストップするまで連続再生するモードです。

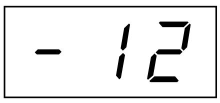
SONG【START/STOP】を押すと再生がスタートします。

2-2 音量の調節

ピアノ曲を聞きながら【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

テンポの調節

ピアノ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが【TEMPO/FUNCTION▼ ▲】を押してテンポを変更できます。【▼】【▲】を同時に押すと曲固有のテンポに戻ります。



操作時、曲固有のテンポに対してのプラスマイナスの値(-50〜50)で表示されます。(曲によって増減幅は異なります。)曲固有のテンポのときは「― ― ―」と表示されます。

メトロノームを鳴らす

ピアノ曲の再生と一緒にメトロノームを鳴らすこともできます。

METRONOME【START/STOP】を押すとメトロノームが鳴り、もう一度押すと止まります。

3 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中に(または連続再生中に)ストップする場合は、SONG【START/STOP】を押します。

・続いて他の曲を再生する場合は、操作2に戻ります。

4 ピアノ曲モードを抜ける

【PRESET SONG】を押します。

⇨【PRESET SONG】のランプが消灯します。

次に、ピアノ50曲の、右手または左手パートの再生をOFFにしてご自分で練習する方法(片手練習)と、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習する方法(部分練習)を説明します。

デモ曲モード(P14)のとき、録音モード(P25)のとき、曲の再生中(P29)は･･･
ピアノ曲モードには入れません。

SONGソングとは･･･
クラビノーバでは、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲やピアノ曲も演奏データです。

Point 再生に合わせて、ご自身で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます。

Point 手弾き音と再生音用に【BRILLIANCE】(CLP-950)(P19)【REVERB】(P19)を、手弾き音用に【EFFECT】(P19)【TOUCH】(P20)を切り替えることもできます。

?テンポのリセット(再設定)
新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

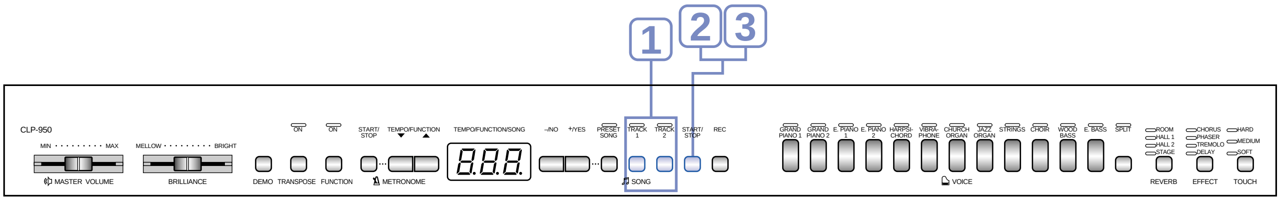
?【REVERB】は新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)【HALL1】になります。

本編

ピアノ曲の再生データは、MIDI送信されません。また、ピアノ曲モード中はMIDI受信を行ないません。

ピアノ50曲の片手練習をする

ピアノ50曲では、右手パートと左手パートが別々のトラックに入っています。それぞれの再生をON/OFFし、再生をOFFにしたパートをご自分で練習することができます。右手パートが【TRACK1】に、左手パートが【TRACK2】に入っています。



操 作

1 練習するパートの再生をOFFにする

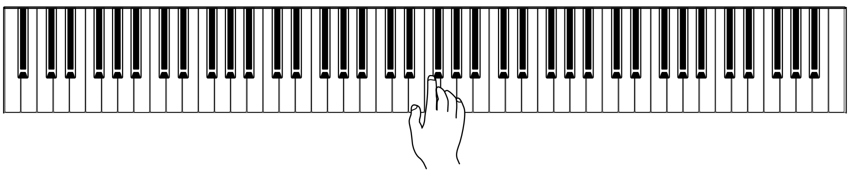
選曲したあと【TRACK1】【TRACK2】の再生をOFFにしたい方を押します。(選曲した時点では【TRACK1】【TRACK2】共ランプが点灯しています。)

⇨ 押した方のボタンのランプが消灯します。

- **それぞれのボタンは、押すごとに再生のON/OFFが切り替わります。**

2 再生スタート/演奏

SONG【START/STOP】を押して再生をスタートします。再生をOFFにしたパートをご自身で演奏してください。

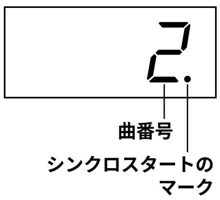


弾くと同時に再生をスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。
再生ONのパートのボタンを押したまま SONG【START/STOP】を押すとシンクロスタート待機状態になります。

⇨ ディスプレイにシンクロスタートのマーク「.」が現れ、点滅します。

(もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。)



このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。
ファンクション(P36)で左のペダルの機能をスタート/ストップ(パネルのSONG【START/STOP】と同じ機能)に切り替えます。

3 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中でストップする場合は、SONG【START/STOP】を押します。

ピアノ50曲をALLとrnd(P15)で再生しているときは、パートの再生をOFFにすることはできません。

Point 再生中の、パートごとの再生ON/OFF…
再生中でも、パートごとの再生ON/OFFを切り替えることができます。

Point 再生をOFFにしたパートの音量調節…
再生をOFFにしたパートは演奏タイミングのガイドのために、完全に音を消すのではなく、少しだけ音を出しています。この音量加減の調節や、完全に音を消す設定が、ファンクション (P36)でできます。

シンクロ=同時の、同時に起こる

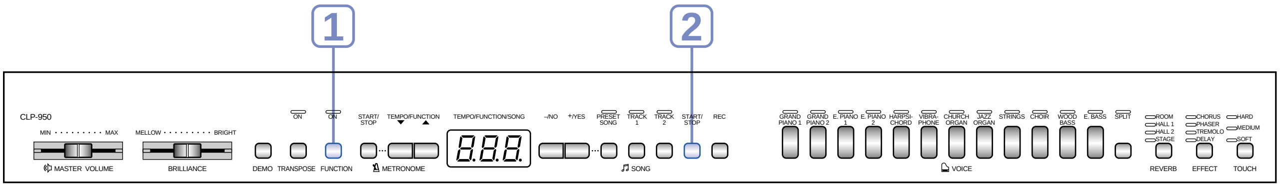
? 再生OFFのパートのボタンを押したまま SONG【START/STOP】を押すと…
そのパートの再生がONになると共に、シンクロスタート待機状態になります。

? パート再生のリセット(再設定)…
新しい曲を選ぶと自動的に両パート共再生ONにリセットされます。

本編

ピアノ50曲の部分練習をする

曲中のフレーズを指定して繰り返し練習（部分練習）することができます。前ページの「ピアノ50曲の片手練習」も一緒にお使いいただけます。

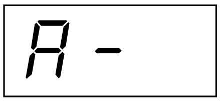


操作

1 フレーズの始まり（A点）と終わり（B点）の指定と練習スタート

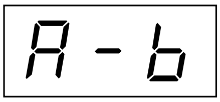
選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり（A点）にしたいところで【FUNCTION】を押します。

⇨ 始まり（A点）が設定され、ディスプレイに 「A -」 と表示されます。

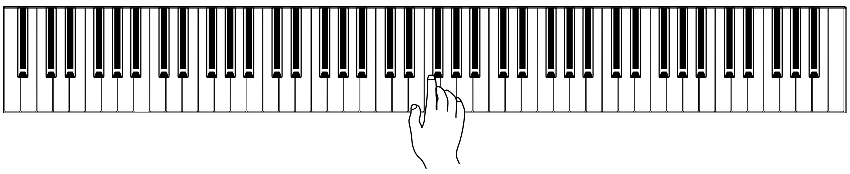


続いて、終わり（B点）にしたいところでもう一度【FUNCTION】を押します。

⇨ 終わり（B点）が設定され、ディスプレイに 「A - b」 と表示されます。



同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。練習してください。



2 練習ストップ

A点、B点の設定を保ったまま一時練習をストップするときはSONG【START/STOP】を押します。（この場合、再度SONG【START/STOP】を押すと、再びA点～B点の繰り返し再生がスタートします。）

A点、B点の設定を解除するときはもう一度【FUNCTION】を押します。

ピアノ50曲をALLとrnd（P15）で再生しているときは、パートの再生をOFFにすることはできません。

曲の先頭から繰り返しを始めたいときは…
再生をスタートする前に【FUNCTION】を押して始まり（A点）を設定します。

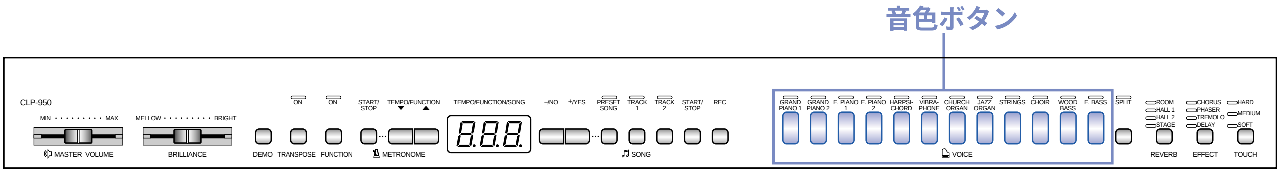
Point 再生の出だしでタイミングをとるためのタクト音が鳴ります。

新しい曲を選ぶと…
A点、B点は自動的に解除されます。

本編

音色を楽しむ

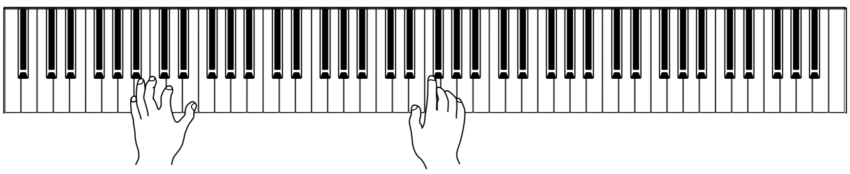
音色を選ぶ



操 作

使いたい音色ボタンを押します。
⇨ ランプが点灯します。

【MASTER VOLUME】で音量を調節しながら演奏してください。



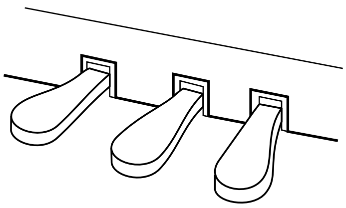
Point **音色の特徴をつかむには…**
音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(P14)
「音色一覧」(P49)もご参照ください。

音色ボタンの下に印刷されている「VOICE」は、「声」や「音」などの意味があります。

Point タッチにより音の強弱を付けることができますが、音色によっては音の強弱が付かないものがあります。「音色一覧」(P49)をご参照ください。

ペダルを使う

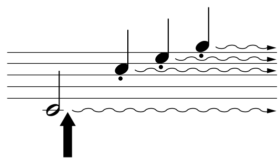
ペダルには、右のペダル(ダンパーペダル)とまん中のペダル(ソステヌートペダル)、左のペダル(ソフトペダル)があります。これらはピアノ演奏で使われます。



右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。

CLP-950では【GRAND PIANO 1】の音色で、ダンパーペダルを踏むと、ダンパーペダルを踏んだときの響板や弦の共鳴効果(サステインサンプリング)が加わります。



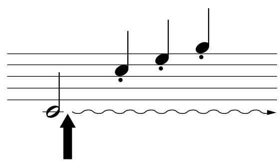
ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

? **ダンパーペダルが効かない、または踏んでいないのに音が長く響いてしまう…**
ペダルコードのプラグが【PEDAL】端子に差し込まれていないと思われます。確実に差し込んでください。(CLP-930:P58の手順 5 、CLP-950:P60の手順 6)

Point **CLP-950では…**
ファンクションでダンパーペダルの共鳴効果(サステインサンプリング)の深さを調節できます。(P36)

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

Point **オルガンやストリングス、クワイアの音色では…**
ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

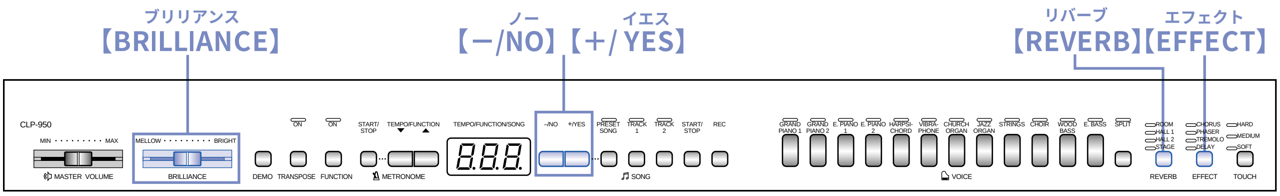
本編

左のペダル（ソフトペダル）

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。（ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。）

Point 左のペダルの機能切り替え…
ファンクション（P36）で左のペダルをパネルのSONG【START/STOP】と同じ機能に切り替えることができます。

音に変化を付ける・・・【BRILLIANCE】(CLP-950)/【REVERB】/【EFFECT】



【BRILLIANCE】(CLP-950)

音質を調節します。BRIGHTにするほど明るく鋭い音になり、MELLOWにするほど柔らかくまろやかな音になります。

【BRIGHT】にすると、音量が少し大きくなりますので、【MASTER VOLUME】が上がっていると、音がゆがむことがあります。この場合、【MASTER VOLUME】を少し下げてご使用ください。

【REVERB】

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ（かかり具合）を変えることもできます。

OFF： リバーブはかかりません。
ROOM： 部屋の中にいるような響きになります。
HALL 1：小さいコンサートホールにいるような響きになります。
HALL 2：大きいコンサートホールにいるような響きになります。
STAGE： ステージにいるような響きになります。

Point 基本設定…
音色ごとにリバーブの種類（OFFも含む）が設定されています。

基本設定とは…
本書では、初めて電源を入れたときの設定のことを「基本設定」と呼んでいます。

操 作

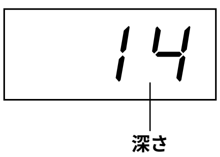
【REVERB】を押すごとに種類が切り替わります。
⇨ 選ばれている種類のランプが点灯します。OFFの場合はどのランプも点灯しません。

CLP-950の【GRAND PIANO 1】の音色では、OFFの場合でも、ピアノの響板の響き（サウンドボードリバーブ）を残すようになっています。

Point リバーブの種類は
【REVERB】を押して離したときに切り替わります。【REVERB】を押したまま深さを変更したときは、【REVERB】を離しても種類は切り替わりません。

深さ（かかり具合）を変える

【REVERB】を押している間はディスプレイにリバーブの深さの値が表示されます。
【REVERB】を押したまま【−/NO】または【+/YES】を押すと、深さの値（0〜20）が変わります。



Point 深さ0 ：効果なし〜
深さ20 ：深さ最大

Point 基本設定…
音色ごとに標準の深さが設定されています。

本編

【EFFECT】

音に効果を付け加えます。
その深さ（かかり具合）を変えることもできます。

OFF：　エフェクトはかかりません。
CHORUS：　広がり感を付けます。
PHASER：　深みを加えます。
TREMOLO：　音量を揺らします。
DELAY：　反響音を付けます。

Point 基本設定…
音色ごとにエフェクトの種類（OFFも含む）が設定されています。

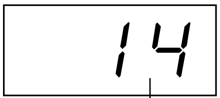
操 作

【EFFECT】を押すごとに種類が切り替わります。
⇨ 選ばれている種類のランプが点灯します。OFFの場合はどのランプも点灯しません。

Point エフェクトの種類は【EFFECT】を押して離したときに切り替わります。【EFFECT】を押したまま深さを変更したときは、【EFFECT】を離しても種類は切り替わりません。

深さ（かかり具合）を変える

【EFFECT】を押している間はディスプレイにエフェクトの深さの値が表示されます。
【EFFECT】を押したまま【－/NO】または【＋/YES】を押すと、深さの値（0～20）が変わります。



深さ

Point 深さ0：効果なし～
深さ20：深さ最大

Point 基本設定…
音色ごとに標準の深さが設定されています。

タッチ感を変える･･･【TOUCH】

弾く強さに対する音の強弱の付き方（タッチ感）を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

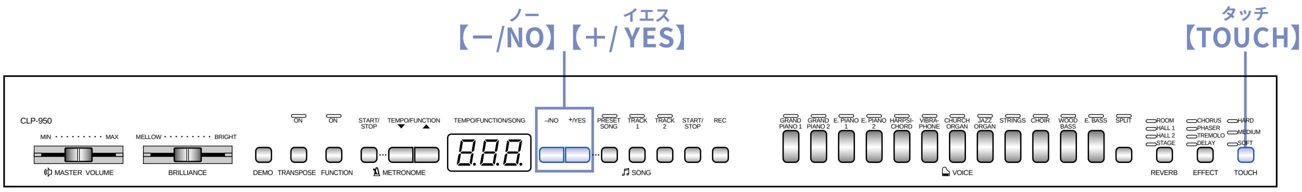
HARD：　強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアニッシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。
MEDIUM：　標準的なタッチです。
SOFT：　軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつぶがそろいやすいタッチです。
FIXED：　タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

Point 鍵盤の重さ自体は変わりません。

HARD＝「強い」
MEDIUM＝「中間の、中位の」
SOFT＝「やさしい、楽な」
FIXED＝「固定された」

Point 基本設定…
MEDIUM

Point タッチの種類は全音色に共通の設定となります。ただし、音色によっては、ここでの設定にかかわらず、タッチによる音の強弱がつかないものもあります。「音色一覧」（P49）をご参照ください。



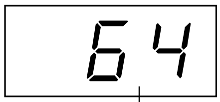
本編

操作

【TOUCH】を押すごとに種類が切り替わります。
⇨ 選ばれている種類のランプが点灯します。FIXEDのときは、どのランプも点灯しません。

FIXEDの場合の音量を変える

FIXEDを選んでいるとき(どのランプも点灯していないとき)、【TOUCH】を押している間はディスプレイに音量を示す値が表示されます。
【TOUCH】を押したまま【－/NO】または【＋/YES】を押すと、音量を示す値(1～127、基本設定＝64)が変わります。



音量

Point 1：最小音量～
127：最大音量

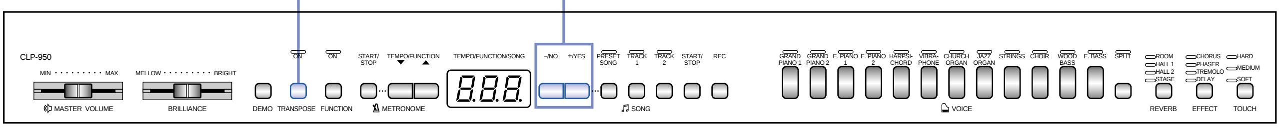
Point FIXEDの場合の音量も全音色に共通の設定となります。

Point タッチの種類は【TOUCH】を押して離したときに切り替わります。【TOUCH】を押したままFIXEDの場合の音量を変更したときは、【TOUCH】を離しても種類は切り替わりません(FIXEDのままとなります)。

キー(調)を変える･･･【TRANSPOSE】

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲を移調したりすることができます。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。
たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。

【TRANSPOSE】 【－/NO】【＋/YES】



操作

【TRANSPOSE】を押している間はディスプレイにトランスポーズ量の半音単位の値が表示されます。
【TRANSPOSE】を押したまま【－/NO】または【＋/YES】を押すと、トランスポーズ量の半音単位の値(-12～0～12、基本設定=0)が変わります。



トランスポーズ量

【TRANSPOSE】のランプは、【TRANSPOSE】を押している間点灯しますが、トランスポーズ量を0以外に設定したときは、操作後も引き続き、点灯し続けます。
0以外に設定したあとは、【TRANSPOSE】を押すごとに、トランスポーズのON/OFFを切り替えることができます。

TRANSPOSE:移調する
移調:曲全体の音程を上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。

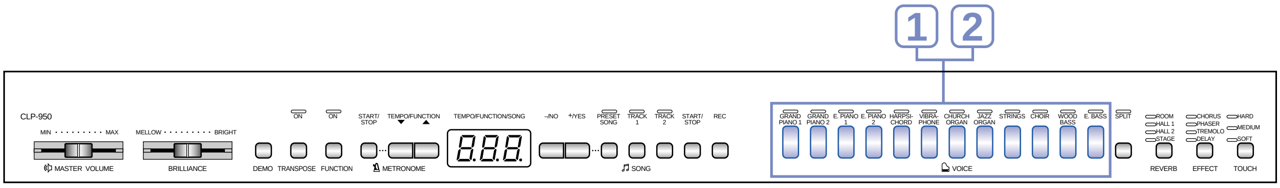
Point トランスポーズ量…
-12：-12半音(-1オクターブ)
0：標準音程
12：12半音(+1オクターブ)

Point トランスポーズをかけた場合の発音域について…
トランスポーズによって、元の88鍵の最高音(C7)より高くなる音は1オクターブ下の音で、元の88鍵の最低音(A-1)より低くなる音は1オクターブ上の音で発音します。

本編

2つの音色を混ぜる(デュアル)

2種類の音色を混ぜて使うことができます。2つの音色でメロディをデュエットさせたり、同系統の音色を混ぜて厚みのある音を作り出したりすることができます。



操作

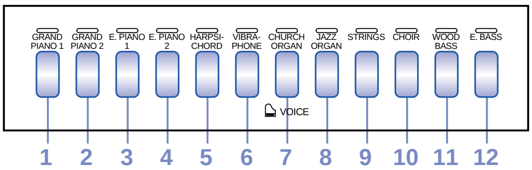
1 デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押します。(または1つの音色ボタンを押したままもう1つの音色ボタンを押します。)

⇨ 2つの音色ボタンのランプが点灯します。

※ 右記の優先順位で2つの音色のうち番号の若い方の音色が第1音色になります(もう一方は第2音色)。

優先順位



(CLP-950)

デュアルでの音量バランスやオクターブ設定をはじめとした、いろいろな設定が「ファンクションF3」(P34)でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

2 デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜け、通常の演奏状態に戻ります。

デュアル=2つ

デュアルとスプリット…
デュアルとスプリット(CLP-950)(P23)を同時に使うことはできません。

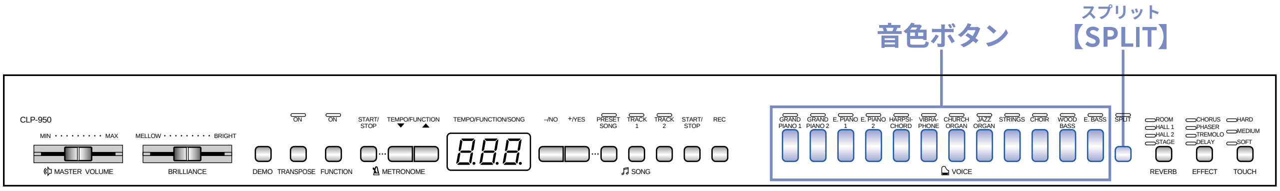
デュアルのときの【REVERB】…
第1音色のリバーブの種類が、優先されます。(OFFの場合は第2音色のものになります。)深さの調節(【REVERB】を押したまま【−/NO】【+/YES】を押す)は、第1音色にだけ影響します。

デュアルのときの【EFFECT】…
状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。
深さは、音色の組み合わせごとに基本設定を持っていますが、「ファンクションF3」(P34)で音色ごとに任意に設定することもできます。
パネルでの深さの調節(【EFFECT】を押したまま【−/NO】【+/YES】を押す)は、第1音色にだけ影響します。

本編

鍵域を左右に分けて別々の2つの音色で弾く･･･【SPLIT】(スプリット)(CLP-950)

鍵盤全体を左右の領域に分け、別々の音色で演奏することができます。左の領域で「WOOD BASS(ウッドベース)」や「E.BASS(エレクトリックベース)」などの音色でベースパートを、右の領域でメロディパートを演奏したりすることができます。



操 作

1 スプリットモードに入る

【SPLIT(スプリット)】を押します。

⇨ ランプが点灯します。

⇨ この時点で、左側音色に基本設定の音色【WOOD BASS(ウッドベース)】が選ばれます。

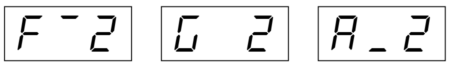
スプリットでの音量バランスやオクターブ設定をはじめとした、いろいろな設定が「ファンクションF4」(P35)でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

2 スプリットポイント(2音色の境め)を決める

【SPLIT(スプリット)】を押している間はディスプレイにスプリットポイントの鍵盤名が表示されます。

【SPLIT(スプリット)】を押したまま、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。

スプリットポイントの鍵盤名の表示の例



(F♯2) シャープのとき上に“ ‾ ”

(G2)

(A♭2) フラットのとき下に“ _ ”

スプリットポイントの基本設定は「F♯2」です。変える必要がない場合はこの操作は必要ありません。

3 右側の音色を決める

演奏したい音色ボタンを押します。

4 左側の音色を決める

【SPLIT(スプリット)】を押したまま、演奏したい音色ボタンを押します。(【SPLIT(スプリット)】を押している間は左側の音色ボタンのランプが点灯します。)

5 スプリットモードを抜ける

【SPLIT(スプリット)】を押します。

⇨ ランプが消灯します。

スプリットとデュアル…
スプリットとデュアル(P22)を同時に使うことはできません。

Point スプリットポイントの鍵盤は左側に含まれます。

Point スプリットポイントは「ファンクションF4」(P35)でも設定できます。

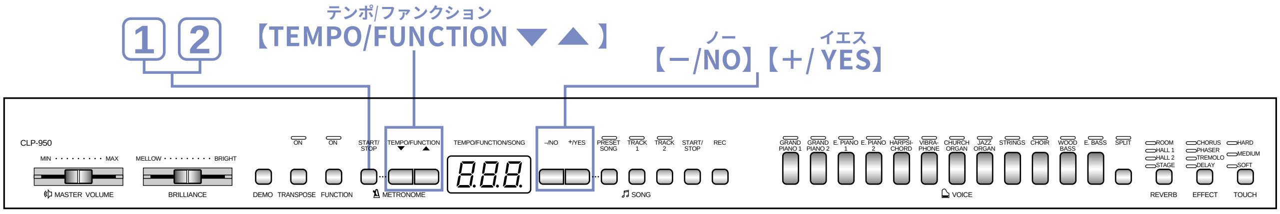
Point スプリットのときの【REVERB(リバーブ)】…
右側の音色のリバーブの種類が、優先されます。(OFF(オフ)の場合は左側の音色のものになります。)深さの調節(【REVERB(リバーブ)】を押したまま【−/NO(ノー)】【+/YES(イエス)】を押す)は、右側の音色にだけ影響します。

Point スプリットのときの【EFFECT(エフェクト)】…
状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。
深さは、音色の組み合わせごとに基本設定を持っていますが、「ファンクションF4」(P35)で音色ごとに任意に設定することもできます。
パネルでの深さの調節(【EFFECT(エフェクト)】を押したまま【−/NO(ノー)】【+/YES(イエス)】を押す)は、右側の音色にだけ影響します。

本編

メトロノームを使う（METRONOME）

クラビノーバは、メトロノーム（ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具）を備えています。ご使用ください。

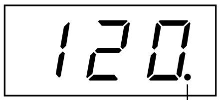


操 作

1 メトロノームを鳴らす

METRONOME【START/STOP】を押します。

⇨ メトロノームが鳴り出します。



メトロノームが鳴っている間、テンポに合わせて点滅します。

テンポの調節

【TEMPO/FUNCTION▼ ▲】を押すとテンポの値（32～280〔1分間の拍数〕、基本設定=120）が変わります。

拍子の設定

METRONOME【START/STOP】を押している間はディスプレイに拍子が表示されます。

METRONOME【START/STOP】を押したまま【−/NO】または【+/YES】を押すと、拍子（0、2、3、4、5、6、基本設定=0〔無拍子〕）が変わります。



拍子

2 メトロノームを止める

METRONOME【START/STOP】を押します。

⇨ メトロノームが止まります。

Point メトロノームの音量は…

ファンクション（P36）で設定できます。

本編

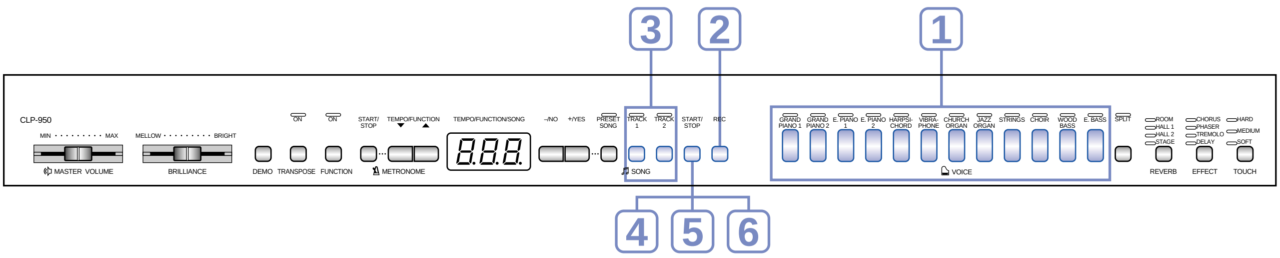
演奏を録音(記録)する

クラビノーバの録音機能を使ってご自身の演奏を録音する方法を説明します。
練習の中で、ご自身の演奏を録音して聞いてみたり、左手(右手)パートだけ録音しておいて、再生させながら右手(左手)パートを練習したりすることもできます。
また、2つの録音トラックに別々に録音できますので、右手パートと左手パートを分けて録音したり、連弾曲を1パートずつ録音して完成させたりすることもできます。

Point 別の録音方法･･･
AUX OUT端子を使ってカセットテープレコーダーなどに接続し、オーディオ録音することもできます。

「録音」と「記録」…
カセットテープに録音するのとクラビノーバの録音機能を使って録音(記録)するのとでは、録音されるデータの形式が異なります。
カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、クラビノーバの録音機能では音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで…」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。
クラビノーバの録音機能を使った「録音」は、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

最初のトラックに録音する



操 作

録音済みのトラックに再録音すると…
すでに録音されているトラックに録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定(テンポ、リバーブなど)も選んでください。【MASTER VOLUME】は弾きやすい音量に設定してください。再生のときにも【MASTER VOLUME】で音量を調節することができます。

2 録音モードに入る

【REC】を押します。

⇨ **【TRACK1】または【TRACK2】のランプが赤く点灯します。**
ディスプレイにクラビノーバの記憶残容量の数値(KBの数値)が表示されます。また、右端の点「.」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



録音を中止する場合は、もう一度【REC】を押します。

デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)モードのときは…
録音モードに入ることはできません。

記憶残容量とは…
クラビノーバに録音できるスペースがあとどれだけ残っているかを示す値です。データの量を表す単位KB(キロバイト)で示されます。何も録音されていない場合で、50KB(およそ10,000音符分)となります。

Point メトロノームを使う…
METRONOMEを使って録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

Point 録音されるデータの種類については、P27をご覧ください。

本編

3 録音トラックを選ぶ

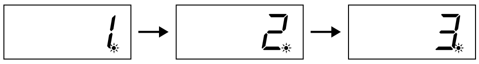
【TRACK1】または【TRACK2】で録音するトラックを選びます。

⇨ ランプが赤く点灯します。

4 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。または、SONG【START/STOP】を押すと録音がスタートします。

⇨ ディスプレイに録音中の小節番号がリアルタイムで表示されます。



5 録音をストップする

SONG【START/STOP】または【REC】を押します。

⇨ 録音したトラックのランプが緑に点灯します。（録音モードは自動的に解除されます。）

6 録音した演奏を聞いてみる

SONG【START/STOP】を押すと、今録音した演奏が再生されます。
もう一度SONG【START/STOP】を押すと、再生が止まります。

Point 左のペダルを使ってスタートする…
ファンクション（P36）で左のペダルをパネルのSONG【START/STOP】と同じ機能に切り替えることができます。そうすると、左のペダルで録音をスタートすることができます。

? 録音中に記憶残容量が少なくなってきた場合…
録音中のトラックのランプが赤く点滅しだします。そして記憶残容量がなくなると画面に「FUL」のメッセージが出て録音が自動的にストップします。（それまでの演奏データは録音され、残ります。）

? トラックのデータを削除するには…
SONG【START/STOP】で録音をスタートし、何もせずSONG【START/STOP】で録音をストップすると、そのトラックのデータがすべて削除されます。

録音し直す

録音した演奏がうまくいかなかった場合など、もう一度録音し直したい場合の手順を説明します。

1 必要に応じて、録音する音色（とそのほかの設定）を選び直す
先に録音したときと設定を変えたい場合に行なってください。

2 再び録音モードに入る
再び【REC】を押します。

⇨ 今録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

このあと、上記 4 以降の手順に従って録音します。

曲の途中から録音し直すことはできません。

本編

続いて2つめのトラックに録音する

続いて2つめのトラックに録音する場合の手順を説明します。

1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定も選んでください。

2 再び録音モードに入る

再び【REC(レコード)】を押します。

⇨ 前に録音したトラックが自動的に録音トラックとして選ばれ、ランプが赤く点灯します。

3 録音トラックを選ぶ

前に録音したトラックと違う方のトラックを選びます。

⇨ ランプが赤く点灯します。(今録音したトラックのランプは緑に点灯します。)

前に録音したトラックのデータを再生させながら録音することができます。

このあと、前記 4 以降の手順(P26)に従って録音します。

2つめのトラックに別の曲を録音するには…

前に録音したトラックのデータの再生をOFF(オフ)にして録音します。
再び録音モードに入る前(手順 2 の前)に、前に録音したトラックのボタンを押します。
緑のランプが消灯し、再生がOFF(オフ)になります。

録音(記録)されるデータの種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。
下記のように「トラックごとに録音されるデータ」と「2つのトラックで共通に録音されるデータ」があります。

<u>トラックごとに録音されるデータ</u>

- ノートデータ(弾いた音)　※1
- 音色
- ダンパーペダルのON/OFF(オン/オフ)
- ソステヌートペダルのON/OFF(オン/オフ)　※1
- ソフトペダルのON/OFF(オン/オフ)
- 【REVERB(リバーブ)】の深さ
- 【EFFECT(エフェクト)】の深さ
- デュアルの音色
- デュアル音量バランス　※2
- デュアルデチューン　※2
- デュアルオクターブシフト　※2
- スプリットの音色(CLP-950)
- スプリット音量バランス(CLP-950)　※2
- スプリットオクターブシフト(CLP-950)　※2

<u>2つのトラックで共通に録音されるデータ</u>

- テンポ
- 拍子
- 【REVERB(リバーブ)】の種類(OFF(オフ)も含む)
- 【EFFECT(エフェクト)】の種類(OFF(オフ)も含む)

※1 初期値(曲の先頭に記録されるデータ)としては記録されません。
※2 録音途中での変更、初期値の変更(次項参照)はできません。

本編

初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更する

録音を終えたあとでも、曲の初期値(曲の先頭に記録されたデータ)を変更することができます。たとえば、録音したあとで音色を変更して違った雰囲気の曲にしたり、曲を適切なテンポに調節したりすることができます。

以下のデータの初期値を変更することができます。

トラックごとのデータ

音色
ダンパーペダルのON/OFF
ソフトペダルのON/OFF
【REVERB】の深さ
【EFFECT】の深さ
デュアルの音色
スプリットの音色(CLP-950)

2つのトラックに共通のデータ

テンポ
拍子
【REVERB】の種類(OFFも含む)
【EFFECT】の種類(OFFも含む)

1 録音モードに入り、初期値を変更するトラックを選びます。
⇨ ランプが赤く点灯します。(2つのトラックで共通に録音されるデータはどちらのトラックを選んでも変更されます。)

2 変更したい項目をパネルで操作して変更します。
たとえば、録音した【E. PIANO 1】の音色を【E. PIANO 2】に変更したい場合は、ここで【E. PIANO 2】を押します。
ここで鍵盤やSONG【START/STOP】を押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

3 【REC】を押して録音モードを抜けます。
ここでSONG【START/STOP】を押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

初期値変更を中止するには…
操作2のあと、初期値を変更するトラックを変えて、何もしないで操作3で録音モードを抜けると初期値変更は中止されます(2つのトラックで共通に録音されるデータの変更も中止されます。)

録音上のご注意

! 録音した曲は、電源OFF後約1週間記憶され続けます。(ただし、次回電源を入れたときは、録音した曲があってもトラックボタンのランプは自動的には緑に点灯しませんので、再生させる場合はトラックボタンを押して緑に点灯させてください。)1週間以上続けて記憶させる場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。また、クラビノーバにMIDIデータファイラーMDF3などを接続して演奏データを送信し、曲をディスクに保存しておくこともできます。(「録音データのバルク送信」(P38))

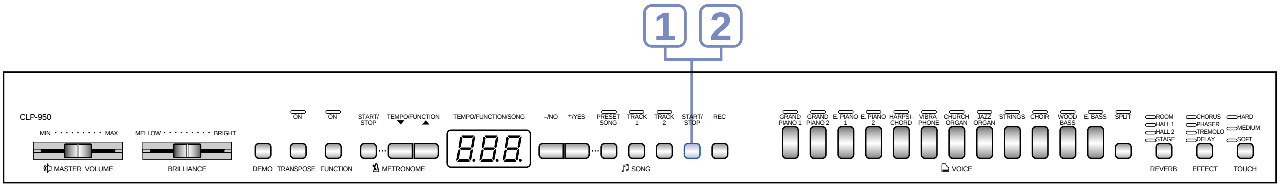
! 録音する際、レコードモードに入る前にあらかじめトラックボタンを押してみて緑に点灯するかどうか確認すると安心です。緑に点灯する場合は、そのトラックに録音済みのデータがあり、再録音すると、そのトラックの録音済みデータは消えてしまいますのでご注意ください。

録音した曲を再生する

録音機能(P25～28)を使って録音した曲を再生します。再生しながら、ご自身で演奏することもできます。

曲の再生データは、MIDI送信されません。

再生の手順

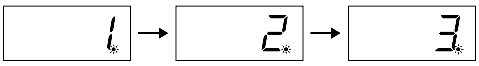


操 作

1 再生スタート

SONG【START/STOP】を押すと再生がスタートします。

⇨ ディスプレイにはスタート後、再生中の小節番号が表示されます。



- 再生しながら、演奏することもできます。この場合、録音された音色とは違う音色をパネルで選ぶと、再生音と違う音色で演奏することができます。

音量の調節

【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

テンポの調節

再生スタート前でも再生中でも、【TEMPO/FUNCTION▼ ▲】を押してテンポを変更することができます。【▼】【▲】を同時に押すと、録音された曲に設定されているテンポに戻ります。

2 再生ストップ

曲が終わると、自動的に再生が終了します。再生の途中でストップする場合は、SONG【START/STOP】を押します。

デモ曲/ピアノ曲(プリセットソング)モードのときは…
再生できません。

録音データがないときはSONG【START/STOP】を押しても再生はスタートしません。

Point 「連弾や2台のピアノのための曲の一方のパートを録音し、それを再生しながら自分でもう一方のパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

Point 再生といっしょにメトロノームを使うこともできます。この場合、再生をストップすると、メトロノームも同時に止まります。

Point **再生中に【REVERB】の種類を切り替えた場合…**
再生中に【REVERB】の種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音も手弾き音もリバーブの種類が切り替わります。

Point **再生中に【EFFECT】の種類を切り替えた場合…**
再生中に【EFFECT】の種類をパネル操作で切り替えた場合、再生音にはエフェクトがかからなくなる場合があります。

再生に関する便利な機能

トラックの再生ON/OFF

録音後は、録音したデータが入っているトラックボタン(【TRACK1】【TRACK2】の片方または両方)のランプが緑に点灯します。
ランプが点灯しているトラックのボタンを押すと、ランプが消灯し、そのトラックのデータが再生されなくなります。ボタンを押すごとに再生のON/OFFが切り替わります。

Point **トラックの再生ON/OFFの切り替えは…**
再生前でも再生中でもできます。両トラックとも再生OFFにした場合は、再生スタートできません。(または、再生がストップします。)

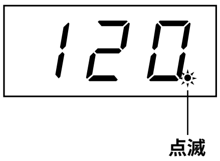
Point **再生をOFFにしたパートの音量は…**
ピアノ50曲では、再生をOFFにしたパートの音量を調節できます(P16、36)が、録音した曲を再生する場合、再生をOFFにしたトラックの音量は0に固定です。

本編

弾くと同時に再生をスタートする（シンクロスタート）

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート（シンクロスタート）することができます。
再生ONのトラックのボタン（【TRACK1】または【TRACK2】）を押したまま SONG【START/STOP】を押すとシンクロスタート待機状態になります。

⇨ **ディスプレイの右端の点「.」が現在のテンポのタイミングで点滅します。**



（もう一度同じ操作をすると、シンクロスタートは解除されます。）

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。
再生しながらご自身も弾く場合、再生とご自身の演奏の出だしを合わせたいときに便利です。

左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。
ファンクション（P36）で左のペダルの機能をスタート/ストップ（パネルのSONG【START/STOP】と同じ機能）に切り替えます。
自分が先に弾き出して、途中から再生をスタートさせたいときに便利です。

再生OFFのトラックのボタンを押したまま SONG【START/STOP】を押すと…
そのトラックの再生がONになると共に、シンクロスタート待機状態になります。

シンクロ＝同時の、同時に起こる

本編

各種の便利な設定をする･･･【FUNCTION】

クラビノーバでは､｢音程を微調整｣したり､｢メトロノームの音量を設定｣したりなど､いろいろ便利な設定をすることができます｡それらをまとめて｢ファンクション｣と呼んでいます｡

ファンクション=機能

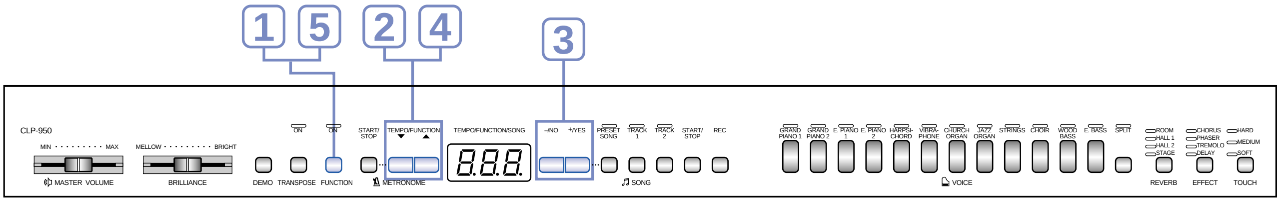
まず､ファンクション一覧表を見てください｡
ファンクションには大項目がCLP-930で8個(F1〜F8)､CLP-950で9個あります(F1〜F9)｡
大項目の中には小項目をいくつか持つものもあります｡

ファンクション一覧

大項目	小項目	CLP-930	CLP-950	ページ
音程の微調整	ー	F1	F1	33
音律(調律法)の設定	音律(調律法)の種類の設定	F2.1	F2.1	33
	基音の設定	F2.2	F2.2	34
デュアルの諸設定	2音色の音量バランスの設定	F3.1	F3.1	34
	2音色の音程を微妙にずらす設定	F3.2	F3.2	34
	第1音色のオクターブシフトの設定	F3.3	F3.3	34
	第2音色のオクターブシフトの設定	F3.4	F3.4	34
	第1音色のエフェクトの深さの設定	F3.5	F3.5	34
	第2音色のエフェクトの深さの設定	F3.6	F3.6	34
	基本設定に戻す操作	F3.7	F3.7	35
スプリットの諸設定	スプリットポイントの設定	-	F4.1	35
	2音色の音量バランスの設定	-	F4.2	35
	右側音色のオクターブシフトの設定	-	F4.3	35
	左側音色のオクターブシフトの設定	-	F4.4	35
	右側音色のエフェクトの深さの設定	-	F4.5	35
	左側音色のエフェクトの深さの設定	-	F4.6	35
	ダンパーペダルの有効域の設定	-	F4.7	35
	基本操作に戻す設定	-	F4.8	35
ペダルの諸設定	左ペダル機能の設定	F4	F5.1	36
	共鳴効果の深さの設定	-	F5.2	36
メトロノーム音量の設定	ー	F5	F6	36
ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定	ー	F6	F7	36
MIDI機能の諸設定	MIDI送信チャンネルの設定	F7.1	F8.1	37
	MIDI受信チャンネルの設定	F7.2	F8.2	37
	ローカルコントロールON/OFFの設定	F7.3	F8.3	37
	プログラムチェンジ送受信ON/OFFの設定	F7.4	F8.4	37
	コントロールチェンジ送受信ON/OFFの設定	F7.5	F8.5	38
	MIDI送信データにトランスポーズをかける設定	F7.6	F8.6	38
	セットアップデータのMIDI送信	F7.7	F8.7	38
	録音データのバルク送信	F7.8	F8.8	38
バックアップON/OFFの設定	音色関連項目のバックアップ設定	F8.1	F9.1	39
	MIDI関連項目のバックアップ設定	F8.2	F9.2	39
	音程､音律関連項目のバックアップ設定	F8.3	F9.3	39
	ペダル関連項目のバックアップ設定	F8.4	F9.4	39

ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。
（ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなった場合はここに戻ってご覧ください。）



操作

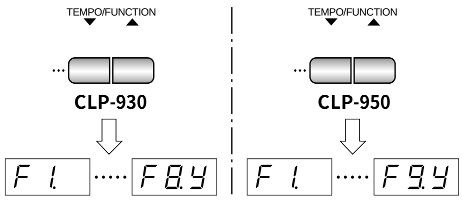
1 ファンクションモードに入る

【FUNCTION】を押します。

⇨ **ランプが点灯し、ファンクションモードのディスプレイ F*.* になります。（*.*のところは、そのときの使用状態によって異なる表示になります。）**

2 大項目を選ぶ

【TEMPO/FUNCTION▼ ▲】でファンクションの大項目（F1～F9）を選びます。
CLP-930：F1～F8、CLP-950：F1～F9



3 【－/NO】【＋/YES】で…

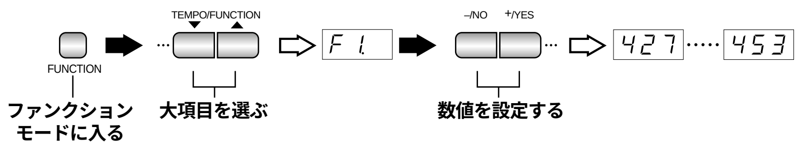
小項目がない場合：　直接設定の操作に入ります。
小項目がある場合：　【＋/YES】で小項目を選択する操作に進みます。

4 これ以降次の２種類のボタンを使って操作します。

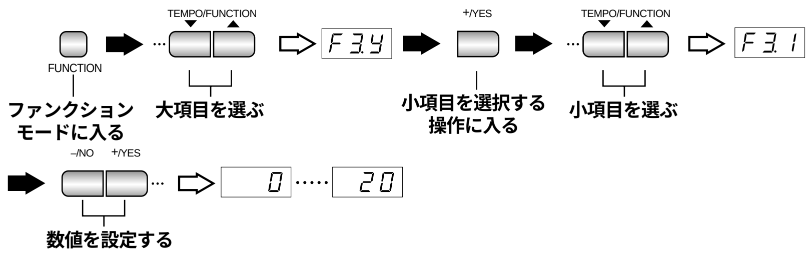
① 【TEMPO/FUNCTION▼ ▲】
大項目または小項目の選択に使います。

② 【－/NO】【＋/YES】
大項目または小項目を選んだあと、ON/OFFの設定、種類の設定、数値の設定をします。
【－/NO】【＋/YES】を同時に押すと基本設定（＝初めて電源を入れたときの設定）に戻る場合があります。

操作例1（F1.「音程の微調整」）



操作例2（F3.1「（デュアルの）2音色の音量バランスの設定」）



5 操作が完了したら…

【FUNCTION】を押してファンクションモードから抜けます。

⇨ **ランプが消灯し、ディスプレイがテンポ表示に戻ります。**

デモ曲/ピアノ曲（プリセットソング）モードのときと、曲の再生中、録音中は…
ファンクションモードに入ることはできません。

？手順 2 3 4 でファンクションの操作を中止したいときは…
【FUNCTION】を押せばいつでもファンクションモードから抜けることができます。

Point 項目を選んだあと、最初に【－/NO】【＋/YES】を押したときは、現在の設定状態（設定値）が表示されます。

本編

各ファンクション項目の説明

F1. 音程の微調整

楽器全体の音程を微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音程を正確に合わせたい場合に使います。

1 ファンクションモードに入り、大項目 [F 1.] を選びます。

2 【－/NO】【＋/YES】で、A3の鍵盤の音程をHzの数値で設定します（約0.2Hz単位）。

⇨ [427] … [440] … [453]

小数点以下の数値は、下記のような点「.」で示されます。

表示	値
440	440.0
4.40	440.2
44.0	440.4
440.	440.6
4.40.	440.8

設定範囲:
427.0～453.0(Hz)
基本設定:
440.0(Hz)

Hzとは…
音の高さを示す単位です。（音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。）

Point. 鍵盤を使った設定方法もあります…（ファンクションモードでないときに操作できます。）

音程を上げる(約0.2Hz単位)…
A-1とB-1(左端の白鍵2つ)を同時に押したまま、C3～B3の1つの鍵盤を押す。

音程を下げる(約0.2Hz単位)…
A-1とA♯-1(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、C3～B3の1つの鍵盤を押す。

基本設定に戻す…
A-1とA♯-1とB-1(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押したまま、C3～B3の1つの鍵盤を押す。

- 鍵盤と鍵盤名の対応については、P12「各部の名前」をご参照ください。

（上記操作中、ディスプレイがHz表示（[427] … [453]）に切り替わります。操作後、元のディスプレイに戻ります。）

Point. 約1Hz単位で設定する方法もあります…（ファンクションモードでないときに操作できます。）

約1Hz単位で音程を上下させる…
「A-1とB-1」または「A-1とA♯-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、【－/NO】【＋/YES】を押す。

基本設定に戻す…
「A-1とB-1」または「A-1とA♯-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、【－/NO】【＋/YES】を同時に押す。

（上記操作中、ディスプレイがHz表示（[427] … [453]）に切り替わります。操作後、元のディスプレイに戻ります。）

F2. 音律（調律法）の選択

音律（調律法）を選ぶ機能です。
現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共に様々な音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。
当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。
次の7種類の音律（調律法）が用意されています。

平均律（Equal Temperament）
1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

純正律(長調)（Pure Temperament)(Majer)
純正律(短調)（Pure Temperament)(minor)
自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

ピタゴラス音律（Pythagorean Temperament）
ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

中全音律（Meantone Temperament）
ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。
十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

ヴェルクマイスター音律（Werckmeister）
キルンベルガー音律（Kirnberger）
中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。
バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード(＝チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

本編

1 ファンクションモードに入り、大項目 F2.4 を選びます。

2 【＋/YES】を押して確定し、【TEMPO/FUNCTION▼▲】で以下の小項目を選び、【－/NO】【＋/YES】で設定します。

小項目

F2.1 音律(調律法)の種類の設定

設定範囲： 1 ･････ 平均律
2 ･････ 純正律(長調)
3 ･････ 純正律(短調)
4 ･････ ピタゴラス音律
5 ･････ 中全音律
6 ･････ ヴェルクマイスター音律
7 ･････ キルンベルガー音律

基本設定： 1 ･････ 平均律

F2.2 基音の設定

平均律以外のときは、基音(演奏する曲の調の主音)を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。(平均律を選んでいても基音の設定はできますが、平均律では意味を持ちません。他の音律を選んだときに意味を持つようになります。)

設定範囲： C, C♯, D, E♭, E, F, F♯, G, A♭, A, B♭, B
基本設定： C

- 基音表示の例

F ‾ (F♯)　　G (G)　　A _ (A♭)

シャープのとき上に“ ― ”
フラットのとき下に“ ― ”

F3. デュアルの諸設定

デュアルモードでの各種設定をします。
2音色の音量バランスを調節したりなど、弾く曲に最適な設定を作ることができます。
音色の組み合わせごとに個別に設定されます。

1 デュアルモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 F3.4 を選びます。

2 【＋/YES】を押して確定し、【TEMPO/FUNCTION▼▲】で以下の小項目を選び、【－/NO】【＋/YES】で設定します。

デュアルモードでないときには…
1での表示が F3.- になり、【＋/YES】を押しても反応しません。
ファンクションモードに入ったあとで、デュアルモードに入ることもできます。

小項目

F3.1 2音色の音量バランスの設定

設定範囲： 0～20 (20に近付くほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)
基本設定： 音色の組み合わせごと

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く混ぜるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

F3.2 2音色の音程を微妙にずらす設定

設定範囲： -10～0～10 (+方向で第1音色の音程が高く、第2音色の音程が低くなる。
-方向で第2音色の音程が高く、第1音色の音程が低くなる。)

Point ずらすことができる音程幅は、低音域ほど大きく(A-1で±60セント)、高音域ほど小さく(C7で±5セント)なっています。(100セント=1半音です。)

基本設定： 音色の組み合わせごと

2音色の音程を微妙にずらすと音に厚みが出ます。

F3.3 第1音色のオクターブシフトの設定
F3.4 第2音色のオクターブシフトの設定

設定範囲： -1、0、1
基本設定： 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

F3.5 第1音色のエフェクトの深さの設定
F3.6 第2音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲： 0～20
基本設定： 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを第1音色と第2音色別々に設定します。
エフェクトがOFFのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

- 「第1音色」「第2音色」については、P22をご覧ください。

本編

F3.7 基本設定に戻す操作

【＋/YES】を押すと上記すべての設定が、その音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

ショートカット操作…

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの F3.* に入ることができます。
この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作（【FUNCTION】を押す ⇨ ランプ消灯）が必要です。

F4.（CLP-950）スプリットの諸設定

スプリットモードでの各種設定をします。
スプリットポイントを変更したりなど、弾く曲に最適な設定を作ることができます。
音色の組み合わせごとに個別に設定されます。

1 スプリットモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 F4.y を選びます。

2 【＋/YES】を押して確定し、【TEMPO/FUNCTION▼，▲】で以下の小項目を選び、【－/NO】【＋/YES】で設定します。

スプリットモードでないときには…

1での表示が F4.- になり、【＋/YES】を押しても反応しません。
ファンクションモードに入ってからではスプリットモードに入ることができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからスプリットモードに入ってください。

小項目

F4.1 スプリットポイントの設定

設定範囲： 全鍵盤
基本設定： F♯2

左鍵域と右鍵域の境め（スプリットポイント）にする鍵盤を指定します。スプリットポイントの鍵盤自体は左鍵域に含まれます。

- 【－/NO】【＋/YES】の代わりに、スプリットポイントにしたい鍵盤を押しても設定できます。
- ファンクションモードでないとき、【SPLIT】を押しながら鍵盤を押しても設定できます。（P23）
- スプリットポイントの鍵盤名表示の例

F‾2　（F♯2）　シャープのとき上に“ ‾ ”
G2　（G2）
A_2　（A♭2）　フラットのとき下に“ _ ”

F4.2 2音色の音量バランスの設定

設定範囲： 0～20（20に近付くほど右側音色の音量が大きくなる、10で同音量）
基本設定： 音色の組み合わせごと

組み合わせる音色により、2音色の音量バランスを好みの状態に設定します。

F4.3 右側音色のオクターブシフトの設定
F4.4 左側音色のオクターブシフトの設定

設定範囲： -1、0、1
基本設定： 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。右側音色と左側音色別々に設定できます。弾く曲の音域などに応じて選んでください。

F4.5 右側音色のエフェクトの深さの設定
F4.6 左側音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲： 0～20
基本設定： 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを右側音色と左側音色別々に設定します。
エフェクトがOFFのときは設定できません。（ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。）

F4.7 ダンパーペダルの有効域の設定

設定範囲： ALL（両音色）、1（右側の音色）、2（左側の音色）
基本設定： ALL

ダンパーペダル効果を両音色にかけるか（ALL）、右側音色にだけかけるか（1）、左側音色にだけかけるか（2）を設定します。

F4.8 基本設定に戻す操作

【＋/YES】を押すと上記すべての設定がその音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

ショートカット操作…

【SPLIT】を押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの F4.* に入ることができます。
この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作（【FUNCTION】を押す ⇨ ランプ消灯）が必要です。

本編

F4.（CLP-930）左ペダル機能の設定
F5.（CLP-950）ペダルの諸設定

CLP-930

左のペダルの機能を設定します。基本設定ではソフトペダルとして機能しますが、ここで、曲のスタート/ストップ機能（パネルのSONG【START/STOP】と同じ機能）に切り替えることができます。

1 **ファンクションモードに入り、大項目 F4. を選びます。**

2 **【－/NO】【＋/YES】で設定します。**

選択範囲： 1（ソフトペダル）、2（スタート／ストップ）
基本設定： 1（ソフトペダル）

CLP-950

左ペダルの機能をSONG【START/STOP】に切り替えたり、ダンパーペダルの共鳴効果の深さを設定します。

1 **ファンクションモードに入り、大項目 F5.4 を選びます。**

2 **【＋/YES】を押して確定し、【TEMPO/FUNCTION▼▲】で以下の小項目を選び、【－/NO】【＋/YES】で設定します。**

小項目

F5.1 左ペダル機能の設定
設定範囲： 1（ソフトペダル）、2（スタート/ストップ）
基本設定： 1（ソフトペダル）
2（スタート/ストップ）にすると、パネルのSONG【START/STOP】と同じ機能になります。

F5.2 共鳴効果の深さの設定
設定範囲： 0～20
基本設定： 12
【GRAND PIANO 1】の音色でダンパーペダルを踏んだときに加わる響板や弦の共鳴効果の深さを設定します。

F5.（CLP-930）メトロノーム音量の設定
F6.（CLP-950）メトロノーム音量の設定

メトロノームの音量を設定します。
メトロノームの音量を大きくしたいときや、小さくしたいときに使います。

1 **ファンクションモードに入り、大項目 F5. （CLP-930）、F6. （CLP-950）を選びます。**

2 **【－/NO】【＋/YES】で設定します。**

設定範囲： 1～20
基本設定： 10

Point ショートカット操作…
METRONOME【START/STOP】を押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの F5. （CLP-930）、F6. （CLP-950）に入ることができます。
この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の操作（【FUNCTION】を押す ⇨ ランプ消灯）が必要です。

F6.（CLP-930）ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定

F7.（CLP-950）ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定

クラビノーバに入っているピアノ50曲（プリセットソング）の再生時、再生をOFFにしたパートの音量を設定します。ガイドとして大きく鳴らしたい場合や小さく鳴らしたい場合、あるいはまったく音を鳴らしたくない場合とに応じて、音量を調節してください。

1 **ファンクションモードに入り、大項目 F6. （CLP-930）、F7. （CLP-950）を選びます。**

2 **【－/NO】【＋/YES】で設定します。**

選択範囲： 0～20
基本設定： 5

本編

F7.（CLP-930）MIDI機能の諸設定
F8.（CLP-950）MIDI機能の諸設定

MIDIに関する各種設定/操作をします。MIDIについての簡単なご紹介が「MIDIについて」（P40）にあります。ご参照ください。

Point 【MIDI端子】を使う場合は、HOST SELECTスイッチをMIDIに設定してください。
【TO HOST】端子を使う場合は、HOST SELECTスイッチを、接続するコンピューターの種類に応じて、正しく設定してください。（P42～45）
ここでのMIDIに関する設定は、【TO HOST】端子での信号の入出力に対しても有効です。

1. **ファンクションモードに入り、大項目 F7.4（CLP-930）、F8.4（CLP-950）を選びます。**

2. **【＋/YES】を押して確定し、【TEMPO/FUNCTION▼▲】で以下の小項目を選び、【－/NO】【＋/YES】で設定します。**

小項目

F7.1（CLP-930）／ F8.1（CLP-950）MIDI送信チャンネルの設定

MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル（1～16チャンネル）を合わせておく必要があります。ここでクラビノーバからMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲:　1～16、OFF（送信しない）
基本設定:　1

? デュアルのときの第2音色、スプリット（CLP-950）のときの左側音色は…

ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。（第1音色、右側音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。）ただし、上記設定チャンネルをOFFに設定した場合は送信されません。

デモ曲/ピアノ50曲（プリセットソング）の再生データ、録音した曲の再生データはMIDI送信されません。

F7.2（CLP-930）／ F8.2（CLP-950）MIDI受信チャンネルの設定

MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル（1～16チャンネル）を合わせておく必要があります。ここでクラビノーバがMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲:　ALL、1&2、1～16
基本設定:　ALL

Point ALLの場合は…

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。
この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、クラビノーバで受信して再生させることができます。

Point 「1＆2」の場合は…

シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、クラビノーバ本体で再生することができます。

Point クラビノーバでは、クラビノーバ本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ（音色切り替え）などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

デモ曲/ピアノ50曲（プリセットソング）モード中は、MIDI受信を行いません。

F7.3（CLP-930）／ F8.3（CLP-950）ローカルコントロールON/OFFの設定

通常、クラビノーバの鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールON」と呼ばれます。「ローカルコントロールをOFF」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもクラビノーバからは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データはMIDI送信されますので、クラビノーバでは音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをOFFにします。

選択範囲:　ON/OFF
基本設定:　ON

F7.4（CLP-930）／ F8.4（CLP-950）プログラムチェンジ送受信ON/OFFの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。
たとえばクラビノーバからプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の音色を切り替えることができます。（クラビノーバのパネル上で音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。）逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをクラビノーバが受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り替わります。（このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。）
このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合（=MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合）と、できないほうが便利な場合（=MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合）があります。音色切り替えを連動させたい場合はONに、連動させたくない場合は、OFFにします。

Point 各音色のプログラムチェンジナンバーについては「MIDIデータフォーマット」のP52をご覧ください。

選択範囲:　ON/OFF
基本設定:　ON

本編

F7.5 (CLP-930)／F8.5 (CLP-950)コントロールチェンジ送受信ON/OFFの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器にダンパーペダルの操作やボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。
たとえばクラビノーバからコントロールチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(クラビノーバでダンパーペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをクラビノーバが受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません)。
このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合はONに、できないほうが便利な場合は、OFFにします。

Point クラビノーバがコントロールチェンジとして扱える情報については「MIDIデータフォーマット」のP52をご覧ください。

選択範囲： ON/OFF
基本設定： ON

F7.6 (CLP-930)／F8.6 (CLP-950) MIDI送信データにトランスポーズをかける設定

MIDI送信データにトランスポーズをかける設定です。(本体のトランスポーズの設定とは連動しません。)

選択範囲： -12〜0〜12(半音単位)
基本設定： 0

F7.7 (CLP-930)／F8.7 (CLP-950)セットアップデータのMIDI送信

クラビノーバのパネル設定状態のセットアップデータを、MIDI接続したMIDIデータファイラーMDF3やシーケンサーなどに送信します。
MDF3や外部シーケンサーに演奏データを録音する際、演奏データの頭に、録音データを再生しながら自分で演奏するためのセットアップデータを送信して記録しておくと、再生しながらの演奏の際、便利です。

セットアップデータとは…

クラビノーバのパネル設定状態一式のデータです。

操作
送信するパネル設定を作ります。
➡ **シーケンサーなどとMIDI接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。**
➡ **ファンクションモードに入ってF7.7 (CLP-930)／F8.7 (CLP-950)を選びます。**
➡ **【＋/YES】を押すと送信が実行されます。**
⇨ End

Point 送信される「セットアップデータ」の内容…

「MIDIデータフォーマット」のP53(パネルデータ詳細)に掲載されている内容が送信されます。

Point 送信したデータの受信方法…

データを送信した機器とクラビノーバをMIDI接続します。
➡ データを送信した機器側で送信操作をします。
⇨ 自動的にクラビノーバがそのデータを受信し、パネルの設定状態に反映されます。
(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

Point セットアップデータMIDI送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F7.8 (CLP-930)／F8.8 (CLP-950)録音データのバルク送信

MIDIデータファイラーMDF3やシーケンサーなどをクラビノーバに接続し、クラビノーバで録音したデータをMIDIのバルクデータとして送信し、ディスクに保存しておくことができます。
保存しておいた録音データを再生する場合は、送信した機器からクラビノーバ本体にバルクデータを送り戻した上で、通常の再生操作で再生します。

バルクデータとは…

MIDIで、データの種類を表す用語で「データのかたまり」といった意味です。

操作
クラビノーバで演奏を録音します。
➡ **MIDIデータファイラーMDF3などとMIDI接続し、MDF3などの側のバルクデータ受信準備を整えます。**
➡ **ファンクションモードに入ってF7.8 (CLP-930)／F8.8 (CLP-950)を選びます。**
➡ **【＋/YES】を押すと送信が実行されます。**
⇨ End

バルクデータ送信中は、手弾き音のデータやパネル情報はMIDI送信されません。また、MIDI受信を行いません。

Point 送信したデータの受信(送り戻し)方法…

データを送信した機器とクラビノーバをMIDI接続します。
➡ データを送信した機器側で送信操作をします。
⇨ 自動的にクラビノーバがそのデータを受信し、本体内にデータが入ります。(このとき、本体内にあったデータは消されます。)
このあと、通常の再生操作で再生できます。
(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。)

デモ曲モードのとき、ピアノ曲(プリセットソング)モードのとき、ファンクションモードのとき、録音モードのときと再生中は、バルクデータ受信はできません。

Point バルクデータ送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F8.（CLP-930）バックアップON/OFFの設定
F9.（CLP-950）バックアップON/OFFの設定

バックアップとは…

ご自身で設定した音色選択や、リバーブのタイプなどをはじめとする設定内容を、電源を切っても消さずに残しておくことを言います。
バックアップをONにしておくと、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。
バックアップをOFFにしておくと、電源をOFFにした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには基本設定（=初めて電源を入れたときの設定）に戻ります。（基本設定一覧がP51に掲載されています。）

ただし「本体内に録音された演奏データ」、ここでの「バックアップON/OFFの設定」自体は常にバックアップされます。

❗バックアップの設定をONにしていても、電源を切って約1週間以上過ぎると、バックアップされている内容が消え、すべての設定内容が基本設定（=初めて電源を入れたときの設定）に戻ってしまいます。したがって、バックアップされている内容を1週間以上保持したい場合は、少なくとも1週間以内に数分間は電源をONにしてください。

機能グループごと（以下の小項目ごと）にバックアップのON/OFFを設定します。

1. **ファンクションモードに入り、大項目 F8.4（CLP-930）、F9.4（CLP-950）を選びます。**

2. **【+/YES】を押して確定し、【TEMPO/FUNCTION▼▲】で以下の小項目を選び、【−/NO】【+/YES】で設定します。**

小項目

F8.1（CLP-930）／F9.1（CLP-950）音色関連項目のバックアップ設定

F8.2（CLP-930）／F9.2（CLP-950）MIDI関連項目のバックアップ設定

F8.3（CLP-930）／F9.3（CLP-950）音程、音律関連項のバックアップ設定

F8.4（CLP-930）／F9.4（CLP-950）ペダル関連項目のバックアップ設定

設定範囲： ON/OFF
基本設定： OFF（すべてのグループ）

•各小項目の内容

F8.1（CLP-930）／F9.1（CLP-950）音色関連項目のバックアップ設定

- 音色選択
- デュアルモードのON/OFFと音色
- デュアルの諸設定（F3.*の設定内容）（音色の組み合わせごと）
- スプリットモードのON/OFFと音色（CLP-950）
- スプリットの諸設定（F4.*の設定内容）（音色の組み合わせごと）（CLP-950）
- リバーブの種類と深さ（音色ごと）
- エフェクトの種類と深さ（音色ごと）
- タッチの設定（FIXED時の音量も含む）
- メトロノームの拍子と音量（音量は、F5.またはF6.の設定内容）
- ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量設定（F6.またはF7.の設定内容）

F8.2（CLP-930）／F9.2（CLP-950）MIDI関連項目のバックアップ設定

MIDI機能の諸設定（F7.*またはF8.*の設定内容）（F7.7 F7.8またはF8.7 F8.8を除く）

F8.3（CLP-930）／F9.3（CLP-950）音程、音律関連項のバックアップ設定

- トランスポーズの設定
- 音程の微調整（F1.の設定）
- 音律（調律法）の種類と基音の設定（F2.*の設定内容）

F8.4（CLP-930）／F9.4（CLP-950）ペダル関連項目のバックアップ設定

- 左ペダル機能の設定（F4.またはF5.1）
- 共鳴効果の深さの設定（CLP-950のF5.2の設定内容）

基本設定（=初めて電源を入れたときの設定）に戻すには…

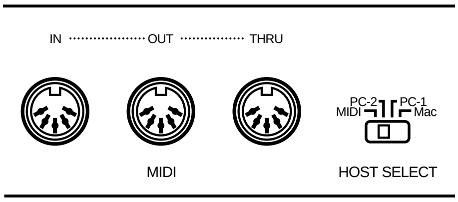
いったん電源をOFFにし、右端の鍵盤（C7）を押したまま電源をONにします。
この操作でいつでも基本設定（=初めて電源を入れたときの設定）に戻すことができます。（ここでの「バックアップON/OFFの設定」も含めたすべての項目が基本設定に戻ります。また、本体内に録音された演奏データも消えます。）（基本設定一覧がP51に掲載されています。）

本編

MIDIについて

MIDI(Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器間や、MIDI機器とパーソナルコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。
MIDI機器間（MIDI機器とパーソナルコンピューター間）でMIDIデータを送受信することにより、クラビノーバから外部のMIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器やパーソナルコンピューターからクラビノーバをコントロールしたりすることができます。

MIDI端子



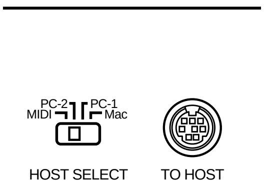
MIDI【IN】：MIDIデータを受信する端子です。
MIDI【OUT】：MIDIデータを送信する端子です。
MIDI【THRU】：MIDI【IN】から入ってきたデータをそのまま送信する端子です。

MIDIケーブル

専用のMIDIケーブルをご用意ください。

【TO HOST】端子

クラビノーバとパーソナルコンピューターを接続する場合に使います。



Point MIDIでは、演奏データや命令を、数値に置き替えたデータで送受信します。

Point MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。共通に扱えるデータや命令は、各機種の「MIDIインプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。クラビノーバのMIDIインプリメンテーションチャートはP55に掲載されています。

MIDI端子を使う場合は、HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定してください。（P44）

Point YAMAHA MIDIケーブル…
MIDI01（長さ1m、税別価格：800円）
MIDI03（長さ3m、税別価格：1,100円）
MIDI15（長さ15m、税別価格：3,000円）

【TO HOST】端子を使う場合は、HOST SELECTスイッチを接続するコンピューターの種類に応じて、正しく設定してください。（P44）

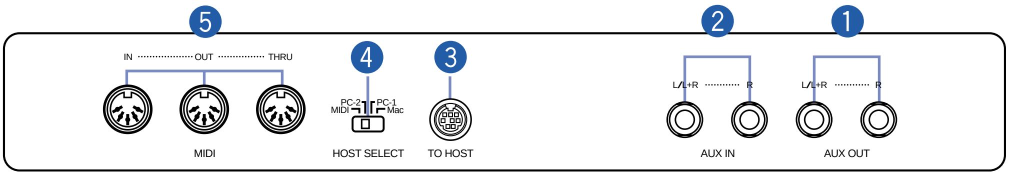
Point MIDIについての詳しい知識は、各種の音楽雑誌や書籍で得ることができます。

本編

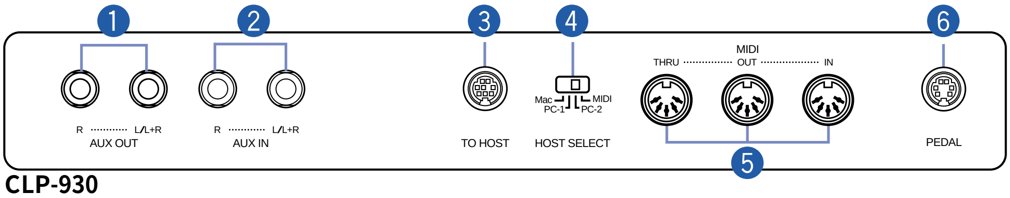
他の機器と接続する

端子について

外部のオーディオ機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行なってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。
感電または機器の損傷のおそれがあります。



CLP-950

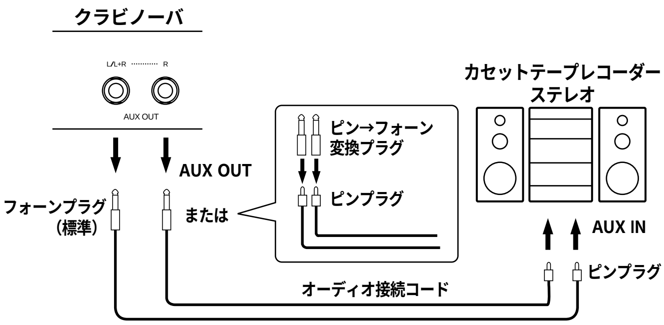


CLP-930

❶ AUX OUT【R】【L/L+R】端子

クラビノーバをステレオなどに接続してより大きな音を出したり、カセットテープレコーダーなどに接続して演奏を録音したりできます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。音量は、クラビノーバの【MASTER VOLUME】ではなく、ステレオ/カセットテープレコーダーなどの側で調節してください。

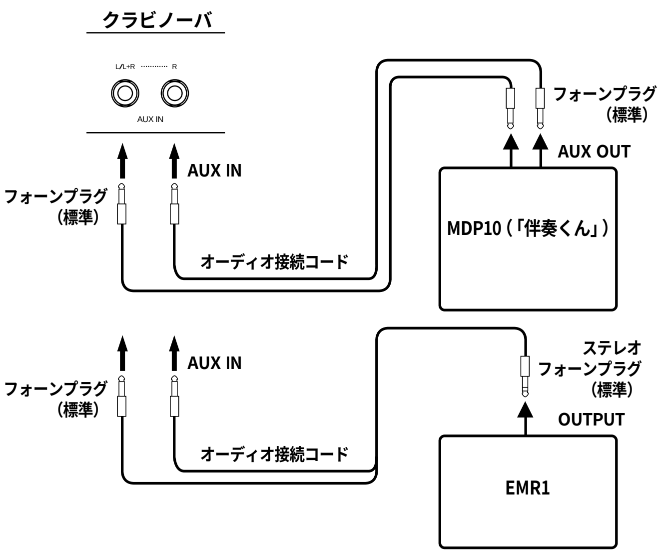
クラビノーバのAUX OUTを使う場合、電源を入れるときはクラビノーバ→外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは、外部オーディオ機器→クラビノーバの順に行なってください。



❷ AUX IN【R】【L/L+R】端子

MDP10(「伴奏くん」)(P48)やEMR1などの外部機器の音をクラビノーバ本体のスピーカーから出すことができます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

クラビノーバのAUX INを使う場合、電源を入れるときは外部機器→クラビノーバの順に、電源を切るときは、クラビノーバ→外部機器の順に行なってください。



AUX OUTから出力した音を、AUX INに戻さないでください。(AUX OUTから外部オーディオ機器に接続した場合、その機器から再びクラビノーバのAUX INに接続しないでください。)クラビノーバのAUX INから入力された音はそのままクラビノーバのAUX OUTから出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

AUX INからの入力音にはクラビノーバ本体の【MASTER VOLUME】や【BRILLIANCE】(CLP-950)は効きますが、【REVERB】や【EFFECT】は効きません。

クラビノーバの【MASTER VOLUME】や【BRILLIANCE】(CLP-950)はAUX OUTからの出力音には効きません。

モノ入力、モノ出力には、AUX IN【L/L+R】、AUX OUT【L/L+R】をご使用ください。

本編

③【TO HOST】端子

パーソナルコンピューターに直接接続する端子です。
（詳しくは次項「パーソナルコンピューターと接続する」をご覧ください。）

④ HOST SELECTスイッチ

MIDI機器やパーソナルコンピューターを接続する場合に、機器やパーソナルコンピューターの種類に応じて切り替えるスイッチです。
（詳しくは次項「パーソナルコンピューターと接続する」をご覧ください。）

⑤ MIDI【IN】【OUT】【THRU】端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続する端子です。
MIDI端子を使う場合は上記HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定してください。
（MIDIについては「MIDIについて」（P40）をご覧ください。）

⑥【PEDAL】端子（CLP-930）

本体のペダルコードを接続する端子です。
（P57からの「CLP-930の組み立て方」をご覧ください。）

パーソナルコンピューターと接続する

パーソナルコンピューター用の音楽ソフトを、クラビノーバの【TO HOST】（またはMIDI端子）とパーソナルコンピューターをつないで楽しむことができます。

クラビノーバを音源として使う場合、クラビノーバにない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

「パソコン活用マニュアル」について

クラビノーバとパーソナルコンピューターを接続してどんなことができるのか、また接続に必要なものや接続の仕方などについて、わかりやすく説明したオンラインマニュアル（PDF）を、インターネットのホームページ（下記）に掲載しております。閲覧/ダウンロードしてぜひご活用ください。

クラビノーバホームページ
http://www.yamaha.co.jp/product/cl/
マニュアルライブラリー（電子楽器/XG）
http://www2.yamaha.co.jp/manual/emi/index_j.html

クラビノーバとコンピューターを接続する場合、3つの方法があります。

1. コンピューターのシリアルポートと、クラビノーバの【TO HOST】端子を使った接続方法（P43）
2. MIDIインターフェース機器と、クラビノーバのMIDI端子を使った接続方法（P44）
3. コンピューターのUSB端子と、USBインターフェース機器を使った接続方法（P45）

詳しくは次ページ以降をご覧ください。

パーソナルコンピューターと接続する場合は、最初に、クラビノーバとコンピューターの電源を切った状態でケーブル接続、HOST SELECTスイッチの設定を行ない、その後コンピューター → クラビノーバの順番で、電源を入れてください。

クラビノーバの【TO HOST】端子を使用しない場合は、必ず【TO HOST】端子からケーブルを抜いてください。ケーブルを接続したままだと、クラビノーバが正常に動作しないことがあります。

ディスプレイに HSr と表示された場合は、コンピューターの電源が切れているか、ケーブルが正しく接続されていない、または、HOST SELECTスイッチが正しく設定されていないか、コンピューター側のドライバーやMIDIアプリケーションが正しく機能していません。この場合は、いったんクラビノーバとコンピューターの電源を切り、ケーブルの接続、HOST SELECTスイッチの設定を確認してください。その後、コンピューター→クラビノーバの順番で電源を入れ直し、コンピューター側のドライバーやMIDIアプリケーションが正しく機能しているか確認してください。

HOST SELECTスイッチを【PC-2】【PC-1】【Mac】に設定しているときは、【TO HOST】端子が使えますが、MIDI端子（【IN】【OUT】【THRU】共）は使えません。（MIDIデータを送受信しません。）
逆に、HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定しているときは、MIDI端子（【IN】【OUT】【THRU】共）が使えますが、【TO HOST】端子は使えません。（データを送受信しません。）

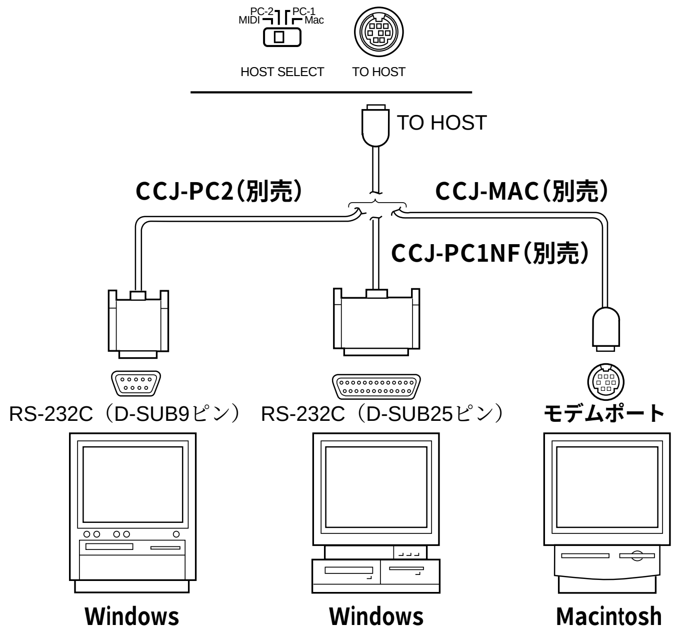
本
編

1. コンピューターのシリアルポートと、クラビノーバの【TO HOST】端子を使った接続方法

コンピューターのシリアルポート(RS-232C端子やRS-422端子)とクラビノーバの【TO HOST】端子を接続します。
この方法では、クラビノーバがMIDIインターフェース機器(コンピューターとMIDI機器の仲立ちをする機器)の役割も果たすため、専用のMIDIインターフェース機器は不要です。

接続方法

コンピューターのシリアルポート(RS-232C端子やRS-422端子)を、専用のシリアルケーブルで、クラビノーバの【TO HOST】端子に接続します。

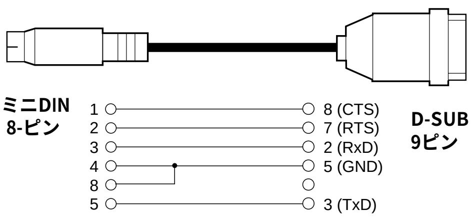


Windows95/98をご使用のお客様へ(MIDIドライバーについて)
コンピューターのシリアルポートとCLP-950/930の【TO HOST】端子を接続して、データのやり取りをするためには、指定のMIDIドライバー(YAMAHA CBX Driver [Windows 95/98対応])をコンピューターにインストールする必要があります。
YAMAHA CBX Driver [Windows 95/98対応]は、インターネットのヤマハホームページ/XGライブラリー→
http://www.yamaha.co.jp/xg
から、ダウンロードして入手することができます。

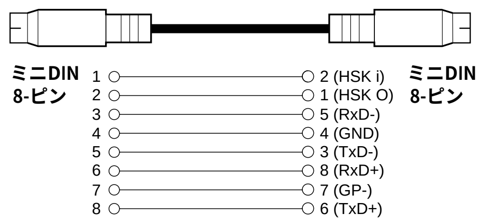
接続するシリアルケーブルの種類と内部配線図

接続するコンピューターの種類に合わせて、下記のシリアルケーブルを使用してください。

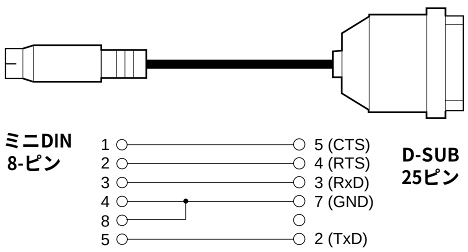
- **Windows用(シリアル端子がD-SUB9ピンの場合)**
  8ピンミニDIN→D-SUB 9ピンケーブル
  (YAMAHA CCJ-PC2または同等品)



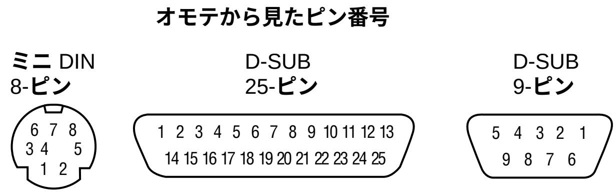
- **Macintosh用**
  システムペリフェラル→8ケーブル
  (YAMAHA CCJ-MACまたは同等品)



- **Windows用(シリアル端子がD-SUB25ピンの場合)**
  8ピンミニDIN→D-SUB 25ピンケーブル
  (YAMAHA CCJ-PC1NFまたは同等品)



- **プラグのピン番号**
  各プラグのピン番号は下記のとおりです。



本編

クラビノーバのHOST SELECTスイッチの設定

接続するパーソナルコンピューターの種類によって、クラビノーバのHOST SELECTスイッチを切り替えます。

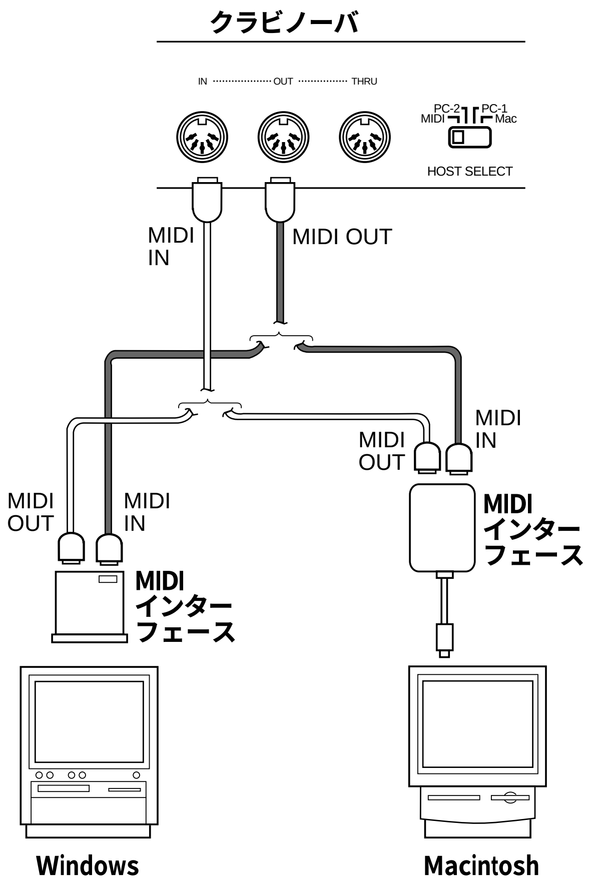
- **Macintosh：**
  【Mac】（ボーレート=31,250bps、1MHzのクロックを使用）
- **Windows：**
  【PC-2】（ボーレート=38,400bps）

Point 使用するソフトウェアの種類によって、上記の設定では動作しないものがあります。お使いになるソフトウェアの取扱説明書をよく読んで、適合するボーレートの位置にHOST SELECTスイッチを設定してください。（【PC-1】のボーレートは、31,250bpsです。）

2. MIDIインターフェース機器と、クラビノーバのMIDI端子を使った接続方法

接続方法

MIDIインターフェース機器を通じてクラビノーバのMIDI端子に接続します。専用のMIDIケーブルを使います。



Point **YAMAHA MIDIケーブル…**
MIDI01（長さ1m、税別価格：800円）
MIDI03（長さ3m、税別価格：1,100円）
MIDI15（長さ15m、税別価格：3,000円）

クラビノーバのHOST SELECTスイッチの設定

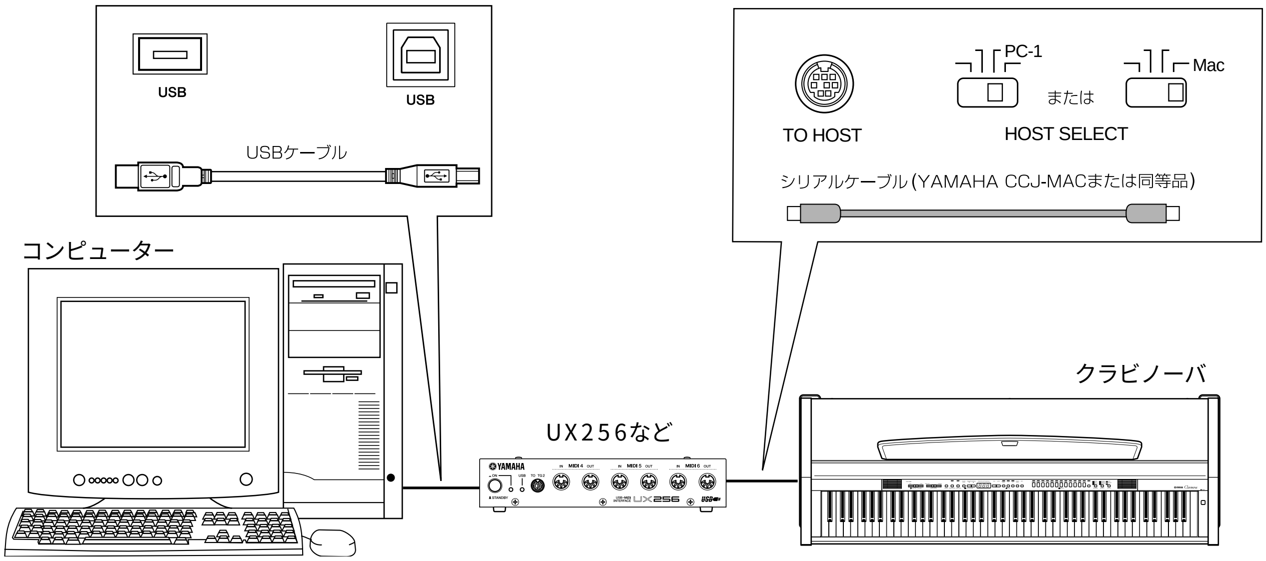
クラビノーバのHOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定します。

本編

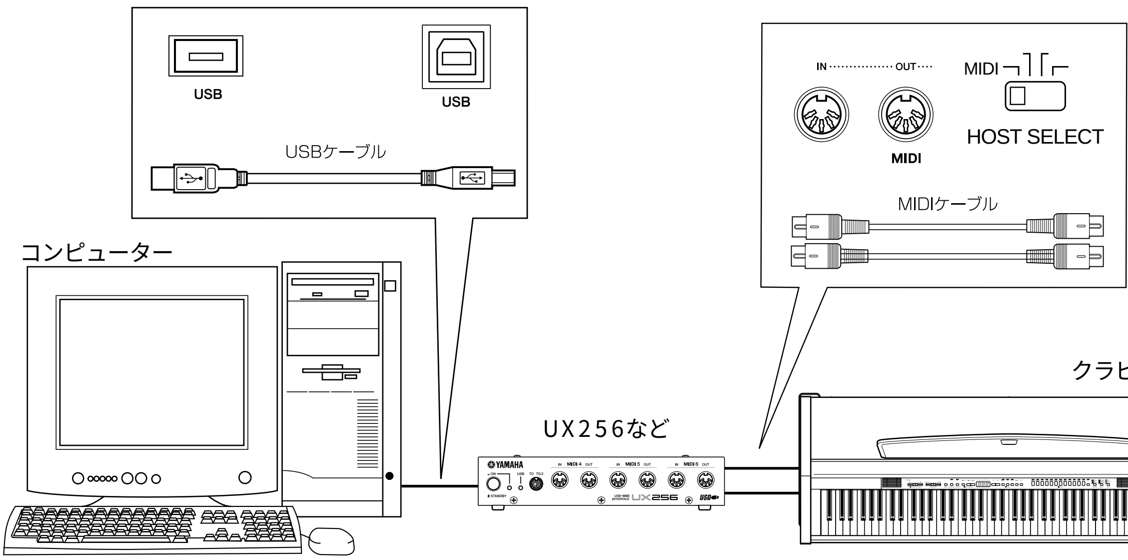
3. コンピューターのＵＳＢ端子と、ＵＳＢインターフェース機器を使った接続方法

コンピューターのUSB端子と、USBインターフェース機器(UX256など)をUSBケーブルで接続します。USBインターフェースに付属のドライバーをインストールします。USBインターフェースとクラビノーバをシリアルケーブル(CCJ-MACなど)またはMIDIケーブルで接続します。
詳しくは、USBインターフェース機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

・ＵＳＢインターフェース機器とクラビノーバをシリアルケーブルでつなぐ場合



・ＵＳＢインターフェース機器とクラビノーバをMIDIケーブルでつなぐ場合



本編

故障かな? と思ったら

現象	考えられる原因	解決法
クラビノーバの電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。(P9)
【POWER】を押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	異常ではありません。
クラビノーバから雑音が出る。	クラビノーバの近くで携帯電話を使っている(または呼び出し音が鳴っている)。	クラビノーバの近くでは、携帯電話の電源を切ってください。クラビノーバの近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	【MASTER VOLUME】が下がっています。	【MASTER VOLUME】を上げてください。(P10)
	ヘッドフォンが接続されています。	ヘッドフォンを抜いてください。(P10)
	ローカルコントロールがOFFになっています。	ローカルコントロールをONにしてください。(P37)
	スピーカーコードが抜けています(CLP-950)。	スピーカーコードを確実に差し込んでください。(P60)
ダンパーペダルが効かない、またはダンパーペダルを踏んでいないのに音が長く響いてしまう。	ペダルコードのプラグがペダル端子(CLP-930では【PEDAL】端子)に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグをペダル端子(CLP-930では【PEDAL】端子)に確実に差し込んでください。(P57からの「CLP-930の組み立て方」を参照してください。)
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	クラビノーバの鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。

ノート　ディスプレイに 5cn が表示された場合は、クラビノーバの内部に異常がありますので、お買い上げの楽器店か、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点までご連絡ください。

付　録

● **クラビノーバをMDP10（「伴奏くん」）と組み合わせて楽しむ方法、その他の資料を掲載しています。**

MDP10(「伴奏くん」)を使ってミュージックデータを楽しむ

・ **MDP10とは---**



スピーカー一体型のミュージックデータ再生専用モジュールです。下記にご紹介するミュージックデータをはじめとした幅広い種類のミュージックデータを簡単操作で再生できます。クラビノーバと組み合わせて使うと、ミュージックデータを再生しながらのアンサンブル演奏や練習ができます。

MDP10で再生できる主な
ヤマハ別売ミュージックデータのご紹介

・ **「ピアノソフト」**
ピアノ演奏データのソフトです。
内外の一流ピアニストの演奏が収録されています。お手本にもなる正統派の演奏から、華麗なるアレンジによる演奏までお楽しみいただけます。
一部MDP10ではご利用いただけないタイトルもあります。

・ **「ピアノ アンサンブル」**
メインのピアノ演奏パートと多音色のバックアンサンブルパートから成る演奏データソフトです。鑑賞するだけでなく、アンサンブルパートをバックにピアノパートをご自身で演奏して楽しむこともできます。楽譜付きです。

・ **「ピアノ アソシエ」**
テキストとオーケストラ伴奏データなどが入った専用ディスクソフトを活用するピアノレッスンメソッドです。MDP10でこの専用ディスクソフトを再生して、ピアノレッスンに活用することができます。

・ **「XGソングデータライブラリー」**
ヤマハの音源フォーマット「XG」に準拠した曲データです。多彩なジャンルの曲データが豊富に取り揃えられています。

・ **伴奏くんレパートリー集「楽器でうたおう」**
カラオケ感覚でどんな楽器でも気軽にアンサンブルが楽しめる演奏データです。楽譜付きです。

※ **Muma(ミューマ)について**
Muma(ミューマ)とは、ヤマハ独自の音楽データ店頭販売システムです。店頭に設置されているMuma(ミューマ)専用コンピューターで、音楽データをアルバム単位または自由選曲方式でお選びいただき、専用フロッピーディスクに収録してご購入いただけます。ピアノソフトの多くを含む豊富な音楽データが取りそろえられています。

※ 上記およびその他のミュージックデータについて詳しくは、ソフトカタログをご覧ください。

クラビノーバとMDP10を組み合わせてミュージックデータを楽しむ方法

クラビノーバとMDP10を組み合わせて使うと、下記のようなことができます。特別な接続は必要ありません。

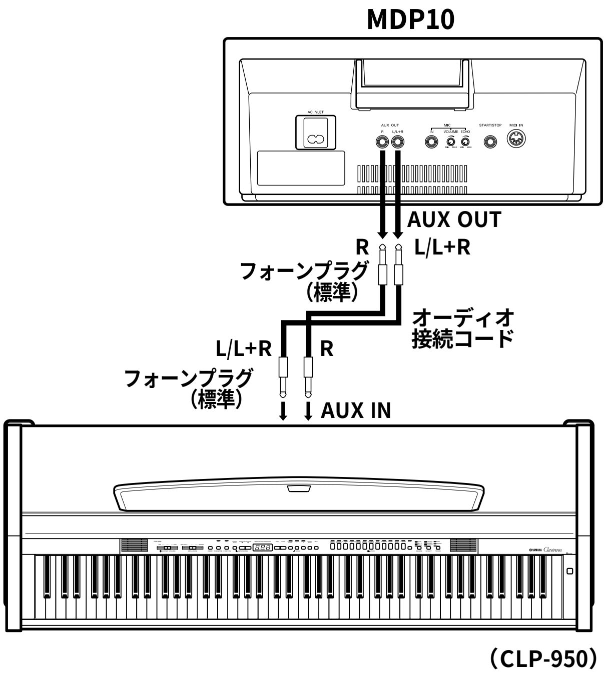
ミュージックデータを再生しながらクラビノーバでアンサンブル演奏

MDP10で曲データの伴奏パートだけ再生しながら、メロディパートをクラビノーバでご自身で演奏して、アンサンブル演奏を楽しむことができます。

ミュージックデータを使ってクラビノーバの練習

・ 右手パートと左手パートが別々のトラックに入っているピアノ曲などのディスクソフトを使うと、練習したいパートの再生をOFF(オフ)にしてクラビノーバで片手練習することができます。
・ 曲中のフレーズを設定してくり返し再生できますので、練習したい部分を集中して練習することができます。

※クラビノーバとMDP10を接続して楽しむこともできます
クラビノーバとMDP10を接続しなくても上記のような楽しみ方ができますが、下図のように接続すると、ご自身の演奏音と一緒に、曲の再生音もクラビノーバのスピーカーから出すことができ、より豊かな音で楽しむことができます。



※ MDP10の取扱説明書も合わせてご参照ください。

音色一覧

	CLP-950	CLP-930	ステレオ/モノ	タッチによる音の強弱	ダイナミックサンプリング(※1)	音色のご紹介
GRAND PIANO 1 (グランドピアノ 1)	○	–	ステレオ	○	○	フルコンサートグランドピアノから新たにサンプリングしました。ダイナミックサンプリング(※1)、ダンパーペダル使用時の音色変化、鍵盤を離したときの微妙な発音まで、アコースティックピアノに極限まで近づけたぜいたくな音作りです。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
GRAND PIANO 2 (グランドピアノ 2)	○	–	ステレオ	○	–	ロック、ポピュラー音楽に適した、明るく広がりのあるピアノ音。
GRAND PIANO (グランドピアノ)	–	○	ステレオ	○	–	フルコンサートグランドピアノから新たにサンプリングしました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
E. PIANO 1 (エレクトリックピアノ 1)	○	○	ステレオ	○	○	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音。タッチの強弱に応じて音色の変化も楽しめます。
E. PIANO 2 (エレクトリックピアノ 2)	○	○	モノ	○	○	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
HARPSICHORD (ハープシコード)	○	○	ステレオ	–	–	バロック音楽でよく使われる楽器。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離したときには独特の発音があります。
VIBRAPHONE (ビブラフォン)	○	○	ステレオ	○	○	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音。強く弾くほど金属的な音になります。
CHURCH ORGAN (チャーチオルガン)	○	○	ステレオ	–	–	賛美歌の伴奏などに適した、柔らかい音のパイプオルガン。
JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)	○	–	モノ	–	–	歯車回転式電気オルガンの音。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。
STRINGS (ストリングス)	○	○	ステレオ	○	–	大編成弦楽アンサンブルの音。ピアノとのデュアルでも楽しめます。
CHOIR (クワイア)	○	○	ステレオ	○	–	空間に広がる心和む合唱の音。スローな曲で和音の広がりが得られます。
WOOD BASS (ウッドベース)	○	–	モノ	○	–	アップライトベースを指で弾く奏法の音。ジャズやラテン音楽などによく用いられます。
E. BASS (エレクトリックベース)	○	–	モノ	○	–	エレクトリックベースの音。ジャズ、ロック、ポピュラーなどの音楽によく用いられます。

※1 ダイナミックサンプリングとは・・・
鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしたものです。よりピアノらしいダイナミックな表現を実現します。

付録

デモ曲一覧

デモ曲

音色	CLP-950	CLP-930	曲名	作曲者
GRAND PIANO 1 (グランドピアノ 1)	○	—	夜想曲第2番変ホ長調(Nocturne Op-9-2)	F.F.Chopin
GRAND PIANO 2 (グランドピアノ 2)	○	—	ピアノソナタ第8番ハ短調「悲愴」第2楽章 (Piano Sonate Op.13 "Pathétique" 2nd mov.)	L.v.Beethoven
GRAND PIANO (グランドピアノ)	—	○	小犬のワルツ(Vaise Op.64-1 "Petit chien")	F.F.Chopin
E. PIANO 1 (エレクトリックピアノ 1)	○	○	月の光(Clair de lune)	C.A.Debussy
E. PIANO 2 (エレクトリックピアノ 2)	○	○	絵画的小品集より「スケルツォ・ワルツ」 (Scherzo-valsa(Pièces Pittoresques))	E.Chabrier
HARPSICHORD (ハープシコード)	○	○	かっこう(Le Coucou)	L-C.Daquin
VIBRAPHONE (ビブラフォン)	○	○	練習曲イ短調(Study in A minor)	Georges Pheiffer
CHURCH ORGAN (チャーチオルガン)	○	○	オルガン協奏曲第2番(Organ Concerto Op.4 No.2)	G.F.Händel
JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)	○	—	叙情小曲集第5番より「こびとの行列」 (Trolltog(Lyriske Skmåstykker No.5))	E.H.Grieg
STRINGS (ストリングス)	○	○	ブランデンブルグ協奏曲第3番 (Brandenburgisches Konzert No.3)	J.S.Bach
CHOIR (クワイア)	○	○	カンタータ140番より「目覚めよ!」(Kantate Nr.140)	J.S.Bach
WOOD BASS (ウッドベース)	○	—	動物の謝肉祭より「象」(L'Eléphant)	Saint-Saëns
E. BASS (エレクトリックベース)	○	—	ペールギュント組曲より「山の王の宮殿」(In The Kings Hall)	E.H.Grieg

・上記デモ曲の中には、原曲から編集/抜粋しているものもあります。

付録

基本設定一覧

基本設定(=初めて電源を入れたときの設定)を一覧にしました。

	CLP-950	CLP-930	バックアップグループ	
			CLP-950	CLP-930
音色選択	GRAND PIANO 1	GRAND PIANO	F9.1	F8.1
デュアル機能	OFF	OFF		
スプリット機能	OFF	–		
スプリット左側音色	WOOD BASS	–		
リバーブの種類	音色ごと	音色ごと		
リバーブの深さ	音色ごと	音色ごと		
エフェクトの種類	音色ごと	音色ごと		
エフェクトの深さ	音色ごと	音色ごと		
タッチの種類	MEDIUM	MEDIUM		
タッチがFIXEDのときの音量	64	64		
メトロノーム	OFF	OFF	–	–
メトロノームの拍子	0(無拍子)	0(無拍子)	F9.1	F8.1
テンポ	120	120	–	–
トランスポーズ	0	0	F9.3	F8.3

「–」の項目はバックアップはありません。

ファンクションの基本設定

CLP-950	CLP-930	項目	基本設定値	バックアップグループ	
				CLP-950	CLP-930
F1.	F1.	音程	A3=440Hz	F9.3	F8.3
F2.1	F2.1	音律	1 (平均律)		
F2.2	F2.2	基音	C		
F3.1	F3.1	デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごと	F9.1	F8.1
F3.2	F3.2	デュアル 音程のずらし方の設定	音色の組み合わせごと		
F3.3、F3.4	F3.3、F3.4	デュアル オクターブ設定	音色の組み合わせごと		
F3.5、F3.6	F3.5、F3.6	デュアル エフェクトの深さ	音色の組み合わせごと		
F4.1	–	スプリット ポイント	F♯2		
F4.2	–	スプリット 音量バランス	音色の組み合わせごと		
F4.3、F4.4	–	スプリット オクターブ設定	音色の組み合わせごと		
F4.5、F4.6	–	スプリット エフェクトの深さ	音色の組み合わせごと		
F4.7	–	スプリット ダンパーペダルの有効域	ALL		
F5.1	F4.	左ペダル機能	1 (ソフトペダル)	F9.4	F8.4
F5.2	–	共鳴効果の深さ	12		
F6.	F5.	メトロノーム音量	10	F9.1	F8.1
F7.	F6.	ピアノ50曲のパート再生OFF時の音量	5		
F8.1	F7.1	MIDI送信チャンネル	1	F9.2	F8.2
F8.2	F7.2	MIDI受信チャンネル	ALL		
F8.3	F7.3	ローカルコントロール	ON		
F8.4	F7.4	プログラムチェンジ送受信	ON		
F8.5	F7.5	コントロールチェンジ送受信	ON		
F8.6	F7.6	MIDIトランスポーズ量	0		
F9.	F8.	バックアップの設定	すべてOFF	*	*

「*」の項目は常にバックアップされます。

付録

ミディ
MIDI データフォーマット

1．ノートオン/オフ
[9nH]→[kkH]→[vvH]
9nH ＝ ノートオン/オフ・イベント（n＝チャンネルNo.）
kkH ＝ ノートNo.
（送信：09H〜78H＝A-2〜C8）
（受信：00H〜7FH＝C-2〜G8）*1
vvH ＝ ベロシティ
（ノートオン＝01H〜7FH、ノートオフ＝00H）

[8nH]→[kkH]→[vvH]（受信のみ）
8nH ＝ ノートオフ（n＝チャンネルNo.）
kkH ＝ ノートNo.（00H〜7FH＝C-2〜G8）
vvH ＝ ベロシティ

*1 ただし音色によって発音可能範囲を超えた場合は、オクターブ単位で折り返して発音します。

2．コントロールチェンジ
[BnH]→[ccH]→[vvH]
BnH ＝ コントロール・チェンジ（n＝チャンネルNo.）
ccH ＝ コントロールNo.
vvH ＝ コントロール値

1）バンク選択
ccH パラメーター 値（vvH）
00H バンク選択MSB 00H：ノーマル
20H バンク選択LSB 00H〜7FH

※プログラムチェンジを受信するまで、バンク選択の処理は保留されます。

2）メインボリューム（受信のみ）
ccH パラメーター 値（vvH）
07H ボリューム 00H〜7FH

3）エクスプレッション
ccH パラメーター 値（vvH）
0BH エクスプレッション 00H〜7FH

4）ダンパーペダル
ccH パラメーター 値（vvH）
40H ダンパー 00H〜7FH

5）ソステヌートペダル
ccH パラメーター 値（vvH）
42H ソステヌート 00H〜3FH：オフ、40H〜7FH：オン

6）ソフトペダル
ccH パラメーター 値（vvH）
43H ソフトペダル 00H〜3FH：オフ、40H〜7FH：オン

7）エフェクト1デプス（リバーブ・センドレベル）
ccH パラメーター 値（vvH）
5BH エフェクト1デプス 00H〜7FH

※リバーブ・エフェクトに対するセンドレベルを設定します。

8）エフェクト4デプス（バリエーション・エフェクト・センドレベル）
ccH パラメーター 値（vvH）
5EH エフェクト4デプス 00H〜7FH

3．モード・メッセージ
[BnH]→[ccH]→[vvH]
BnH ＝ コントロール・イベント（n＝チャンネルNo.）
ccH ＝ モード・メッセージNo.
vvH ＝ モード・メッセージ値

1）オール・サウンド・オフ
ccH コントローラー 値（vvH）
78H オール・サウンド・オフ 00H

※該当チャンネルの発音中の音を、すべて消音します。ただし、ノートオンやホールドオンなどのチャンネルメッセージの状態は保持します。

2）リセット・オール・コントローラー
ccH コントローラー 値（vvH）
79H リセット・オール・コントローラー 00H

※以下のようにリセットされます。

コントローラー	設定値
エクスプレッション	127（最大）
ダンパーペダル	0（オフ）
ソステヌート	0（オフ）
ソフトペダル	0（オフ）

3）ローカルコントロール（受信のみ）
ccH コントローラー 値（vvH）
7AH ローカルコントロール 00H（オフ）、7FH（オン）

4）オール・ノート・オフ
ccH コントローラー 値（vvH）
7BH オール・ノート・オフ 00H

※該当チャンネルのオンしているノートをすべてオフにします。ただし、ダンパーもしくはソステヌートがオンの場合は、それらがオフになるまで発音は終了しません。

5）オムニ・オフ（受信のみ）
ccH コントローラー 値（vvH）
7CH オムニ・オフ 00H

※オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

6）オムニ・オン（受信のみ）
ccH コントローラー 値（vvH）
7DH オムニ・オン 00H

※オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

7）モノ（受信のみ）
ccH コントローラー 値（vvH）
7EH モノ 00H

※オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

8）ポリ（受信のみ）
ccH コントローラー 値（vvH）
7FH ポリ 00H

※オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

◆補足
1. ファンクションでコントロールチェンジON/OFFがOFFされているときは、コントロールチェンジは送受信されません。ただし、Bank MSB/LSB、モードメッセージを除きます。
2. ローカル・オン/オフ、オムニ・オン/オフは送信しません。（オール・ノート・オフは、送信時もノート・オフ数を合わせます。）
3. ボイス・バンク（MSB、LSB）受信時は、順番に関係なく受け付けた番号を内部バッファーに保存し、プログラムチェンジを受信した時点のバッファー値を用いて実際の音色を決めます。
4. 本機は常にマルチティンバー・モード、ポリ・モードであり、オムニ・オン/オムニ・オフ/モノ/ポリ・モードを受信しても、モードは変わりません。

4．プログラムチェンジ
[CnH]→[ppH]
CnH ＝ プログラムチェンジ（n＝チャンネルNo.）
ppH ＝ プログラムチェンジNo.

※ファンクションでプログラムチェンジ・ON/OFFがOFFされているときは、プログラムチェンジは送受信されません。Bank MSB/LSBも送受信されません。

各音色のプログラムチェンジナンバーについては、、<付表1>をご参照ください。

5．システム・リアルタイム・メッセージ

1）アクティブ・センシング
[FEH]

※200msecごとに送信します。
※一度FEHを受信した後、約400msec以上MIDIからの信号がこない場合は、オール・サウンド・オフ、オール・ノート・オフ、リセット・オール・コントローラーを受信したときと同じ処理をします。

2）クロック
[F8H]

※96分タイミングで送信します。
※エクスクルーシブ・メッセージでクロックがエクスターナルにセットされた場合に、96分タイミングとして受信します。

3）スタート
[FAH]
※レコーダースタート時に送信します。
※受信するとソングがスタートします。
※クロックがInternalに設定されているときは受信しません。

4）ストップ
[FCH]
※レコーダーストップ時に送信します。
※受信するとソングがストップします。
※クロックがInternalに設定されているときは受信しません。

※MIDI受信時にエラーが起こったときは、全チャンネルのダンパー、ソステヌート、ソフト効果をオフし、オール・ノート・オフします。

<付表1>
各音色のプログラムチェンジナンバー

P.C.#=Program Change number

	CLP-950			CLP-930		
	MSB	LSB	P.C.#	MSB	LSB	P.C.#
GRAND PIANO 1	0	112	0			
GRAND PIANO 2	0	112	1			
GRAND PIANO				0	112	0
E.PIANO 1	0	112	5	0	112	5
E.PIANO 2	0	112	4	0	112	4
HARPSICHORD	0	112	6	0	112	6
VIBRAPHONE	0	112	11	0	112	11
CHURCH ORGAN	0	112	19	0	112	19
JAZZ ORGAN	0	112	16			
STRINGS	0	112	48	0	112	48
CHOIR	0	112	52	0	112	52
WOOD BASS	0	112	32			
E.BASS	0	112	33			

付録

6. システム·エクスクルーシブ·メッセージ（ヤマハMIDIフォーマット）

[F0H]→[43H]→[0nH]→[7CH]→....→ [F7H]

F0H,43H,0nH,7CH	:n＝チャンネルNo.
00H,2AH	:データ長
43H,4CH,20H,20H	:CL
43H,4CH,50H,27H,30H,30H	:CLP-950/930共通
30H,30H	:(ﾊﾞｰｼﾞｮﾝx.y)
［パネルデータ］	
［チェックサム(1バイト)］=0−(43H＋4CH＋20H＋.......＋データエンド)	
F7H	:エンド·オブ·エクスクルーシブ

［パネルデータ詳細］

	CLP-950	CLP-930
(1) 1'st Voice	○	○
(2) Dual On/Off	○	○
(3) Dual Voice	○	○
(4) Dual Balance	○	○
(5) Dual Detune	○	○
(6) Dual Voice1 Octave	○	○
(7) Dual Voice2 Octave	○	○
(8) Dual Voice1 Effect Depth	○	○
(9) Dual Voice2 Effect Depth	○	○
(10) Split On/Off	○	×
(11) Split Voice	○	×
(12) Split Point	○	×
(13) Split Balance	○	×
(14) Split Voice1 Octave	○	×
(15) Split Voice2 Octave	○	×
(16) Split Voice1 Effect Depth	○	×
(17) Split Voice2 Effect Depth	○	×
(18) Split Dumper Mode	○	×
(19) Reverb Type 1	○	○
(20) Reverb Type 2	○	○
(21) Reverb Depth1	○	○
(22) Reverb Depth2	○	○
(23) Effect Type 1	○	○
(24) Effect Type 2	○	○
(25) Effect Depth	○	○
(26) Touch Sensitivity	○	○
(27) Fixed Data	○	○
(28) Left Pedal (Soft/Start)	○	○
(29) テンポ(絶対値 下位byte)	○	○
(30) テンポ(絶対値 上位byte)	○	○

※「×」は無効なデータです。
※ パネルデータ送信要求は受信しません。

7. システム·エクスクルーシブ·メッセージ（ユニバーサル·システム·エクスクルーシブ）

1）ユニバーサル·リアルタイム·メッセージ

[F0H]→[7FH]→[XnH]→[04H]→[01H] → [ℓℓH]→[mmH]→ [F7H]

MIDIマスターボリューム

※ 全チャンネルの音量が一度に変化します。
※ MIDIマスター·ボリュームを受信したときは、MIDI入力チャンネルのみに効果があり、パネルのボリュームは変化しません。

F0H	:エクスクルーシブ·ステータス
7FH	:ユニバーサル·リアルタイム
7FH	:ターゲットデバイスのID
04H	:サブID #1(機種コントロール·メッセージ)
01H	:サブID #2(マスターボリューム)
ℓℓH	:ボリュームLSB
mmH	:ボリュームMSB
F7H	:エンド·オブ·エクスクルーシブ

または

F0H	:エクスクルーシブ·ステータス
7FH	:ユニバーサル·リアルタイム
XnH	:Xは無視、nは0〜Fを受信
04H	:サブID #1(機種コントロール·メッセージ)
01H	:サブID #2(マスターボリューム)
ℓℓH	:ボリュームLSB
mmH	:ボリュームMSB
F7H	:エンド·オブ·エクスクルーシブ

2）ユニバーサル·ノン·リアルタイム·メッセージ(GM ON)

[F0H]→[7EH]→[XnH]→[09H]→[01H] → [F7H]

ジェネラルMIDIモード·オン

F0H	:エクスクルーシブ·ステータス
7EH	:ユニバーサル·ノン·リアルタイム
7FH	:ターゲットデバイスのID
09H	:サブID #1(ジェネラルMIDIメッセージ)
01H	:サブID #2(ジェネラルMIDIオン)
F7H	:エンド·オブ·エクスクルーシブ

または

F0H	:エクスクルーシブ·ステータス
7EH	:ユニバーサル·ノン·リアルタイム
XnH	:Xは無視、nは0〜Fを受信
09H	:サブID #1(ジェネラルMIDIメッセージ)
01H	:サブID #2(ジェネラルMIDIオン)
F7H	:エンド·オブ·エクスクルーシブ

※ オンを受信することにより、MIDIがリセットされて初期状態になります。このメッセージの実行には、約50msecかかるため、次のメッセージとの間隔を注意してください。

8. システム·エクスクルーシブ·メッセージ（XG規格）

1）XGネイティブ·パラメーター·チェンジ

[F0H]→[43H]→[1nH]→[4CH]→[hhH]→[mmH]→[ℓℓH]→[ddH]→……→[F7H]

F0H	:エクスクルーシブ·ステータス
43H	:ヤマハ
1nH	:n＝CLPからの送信時は常に0、受信時は0〜F
4CH	:XGモデルID
hhH	:アドレスHigh
mmH	:アドレスMid
ℓℓH	:アドレスLow
ddH	:データ
¦	: ¦
F7H	:エンド·オブ·エクスクルーシブ

※ データサイズはパラメーターのサイズに一致する必要があります。
※ XGシステム·オンを受信することにより、MIDIがリセットされて初期状態になります。このメッセージの実行には、約50msecかかるため、次のメッセージとの間隔を注意してください。

2）バルクダンプ(受信のみ)

[F0H]→[43H]→[0nH]→[4CH]→[aaH]→[bbH]→[hhH]→[mmH]→[ℓℓH]→[ddH]→……→[ccH]→[F7H]

F0H	:エクスクルーシブ·ステータス
43H	:ヤマハ
0nH	:n＝CLPからの送信時は常に0、受信時は0〜F
4CH	:XGモデルID
aaH	:バイト·カウント
bbH	:バイト·カウント
hhH	:アドレスHigh
mmH	:アドレスMid
ℓℓH	:アドレスLow
ddH	:データ
¦	: ¦
ccH	:チェック·サム
F7H	:エンド·オブ·エクスクルーシブ

※ XGシステム·オンを受信すると、必要なパラメーター、コントロール·チェンジ等をリセットし、初期状態になります。このメッセージの実行には、約50msecかかるため、次のメッセージとの間隔を注意してください。
※ XGネイティブ·パラメーター·チェンジで、データサイズが2または4のパラメーターは、そのサイズ分のデータを送信します。
※ XGバルクダンプのアドレスおよびバイトカウントは、付表2の「MIDIパラメーター·チェンジ表(システム)」を参照してください。付表中トータルサイズで区切られたデータシリーズが一つのバルクになり、そのシリーズの先頭アドレス(00H、00H、00H)のみバルクデータのアドレスとして有効です。

<付表2>
MIDIパラメーター·チェンジ表(システム)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)	
00　00　00	4	020C〜05F4	マスター·チューン	-50〜+50［セント］	00　04　00　00	※ 020CH以下の値は-50セントになります。
01				1stビット3〜0→ビット15〜12	400	05F4H以上の値は+50セントになります。
02				2ndビット3〜0→ビット11〜8		
03				3rdビット3〜0→ビット7〜4		
				4thビット3〜0→ビット3〜0		
04	1	00〜7F	マスター·ボリューム	0〜127	7F	
05	1					
06	1	34〜4C	トランスポーズ	-12〜+12［セミトーン］	40	※ 28H〜33Hの値は-12〜-1に折り返ります。
7E		0	XGシステム·オン	00＝XGシステム·オン		4DH〜58Hの値は+1〜+12に折り返ります。
7F		0	オール·パラメーター·リセット	00＝オン(受信のみ)		
トータルサイズ	07					

＜付表3＞
MIDIパラメーター・チェンジ表（エフェクト1）
※リバーブ、コーラス、バリエーション・タイプのナンバーは、エフェクトMIDIマップを参照してください。

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
02　01　00	2	00～7F	リバーブ・タイプMSB	エフェクトMIDIマップを参照	01(=ホール1)
		00～7F	リバーブ・タイプLSB	00：ベーシック・タイプ	00
02　01　40	2	00～7F	バリエーション・タイプMSB	エフェクトMIDIマップ参照	00(=エフェクトなし)
		00～7F	バリエーション・タイプLSB	00：ベーシック・タイプ	00

注意：ここでいうバリエーション・エフェクトとは、本機のパネルのエフェクトに相当します。

＜付表4＞
MIDIパラメーター・チェンジ表（マルチパート）

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
08　nn　11	1	00～7F	ドライレベル	0～127	7F

＜付表5＞
エフェクトMIDIマップ（Reverb）

	MSB	LSB
ROOM	02H	10H
HALL1	01H	10H
HALL2	01H	11H
STAGE	03H	10H
SOUNDBOARD	03H	12H（CLP-950）

＜付表6＞
エフェクトMIDIマップ（Effect）

	MSB	LSB
CHORUS	42H	10H
PHASER	48H	10H
TREMOLO	42H	12H
DELAY	05H	10H

9．システム・エクスクルーシブ・メッセージ（クラビノーバMIDI準拠）

[F0H]→[43H]→[73H]→[xxH]→[nnH]→[F7H]

F0H　：エクスクルーシブ・ステータス
43H　：ヤマハ
73H　：クラビノーバ
xxH　：機種ID（CLP-950/930共通：67HまたはCLP共通：01H）
nnH　：サブステータス

コントロール	nn
内部クロック	02H
外部クロック	03H
バルクデータ	06H（06Hの後にバルクデータが続く）

F7H　：エンド・オブ・エクスクルーシブ

※nn=02H,03Hの機種IDは、機種（50H）の代わりに、クラビノーバ共通ID（01H）がきても受け付けます。

シーケンスデータバルクダンプ

F0H,43H,73H

xxH	：機種ID（CLP-950：6BH、CLP-930：6AH）
06H	：バルクID
05H	：シーケンスデータ
0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH,0nH	：データレングス
［バルクデータ］	：
［チェックサム（1バイト）］	：0−sum（バルクデータ）
F7H	：エンド・オブ・エクスクルーシブ

10．システム・エクスクルーシブ・メッセージ（特殊操作子）

[F0H]→[43H]→[73H]→[xxH]→[11H]→[0nH]→[ccH]→[vvH]→[F7H]

F0H　：エクスクルーシブ・ステータス
43H　：ヤマハ
73H　：クラビノーバ
67H　：機種ID（CLP950/930共通）
11H　：SK特殊操作子
0nH　：コントロールMIDIチェンジ（n＝特殊操作子チャンネルNo.）
cc　：コントロールNo.
vv　：値
F7H　：エンド・オブ・エクスクルーシブ

コントロール	オン	ccH	vvH
スプリット・ポイント	常に00H	14H	スプリット・キーNo.（CLP-950）
メトロノーム	常に00H	1BH	00H：オフ 01H：-- 02H：2/4 03H：3/4 04H：4/4 05H：5/4 06H：6/4 7FH：ビートなし
ダンパーレベル	Ch：00～0FH	3DH（Chごとのピアノ・ダンパー量を設定する）	（CLP-950） 00H～7FH
チャンネル・デチューン	Ch：00～0FH	43H（Chごとのデチューン量を設定する）	00H～7FH
ボイス・リザーブ	Ch：00～0FH	45H	00H：リザーブ・オフ 7FH：オン*1

*1　リザーブ・オンの間に受信したボリューム、エクスプレッションは次のキー・オン時から有効になります。通常はリザーブ・オフです。

11．システム・エクスクルーシブ・メッセージ（その他）

[F0H]→[43H]→[1nH]→[27H]→[30H]→[00H]→[00H]→[mmH]→[ℓℓH]→[ccH]→[F7H]

※マスター・チューニング（XGと後着優先）で、全チャンネルの音程を一度に変えられるメッセージです。

F0H　：エクスクルーシブ・ステータス
43H　：ヤマハ
1nH　：n＝CLPからの送信時は常に0、受信時は0～F
27H　：TG100の機種ID
30H　：サブID
00H　：
00H　：
mmH　：マスターチューニングMSB
ℓℓH　：マスターチューニングLSB
ccH　：ccはなんでもよい。（7FH以下）
F7H　：エンド・オブ・エクスクルーシブ

付録

YAMAHA [Clavinova]
CLP-950/930 MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 1 March 2000
Version: 1.0

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 チャンネル 1-16 チャンネル	1 チャンネル 1-16 チャンネル	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × ************	モード1 *1 × ×	ポリモードのみ
ノートナンバー	音域	9-120 ***********	0-127 21-108	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	○ 9nH, v= 1-127 × 9nH, v= 0	○ v= 1-127 ×	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチベンダー		×	×	
コントロールチェンジ	0,32 07 11 64 66 67 91 94 120 121	○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ × ×	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	バンクセレクト ボリューム エクスプレッション ダンパー ソステヌート ソフトペダル リバーブデプス エフェクトデプス オール・ラウンド・オフ リセット・オール・コントロール
プログラムチェンジ	設定可能範囲	○ ******	○	
システムエクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	○ ○	○ ○	
その他	ローカルオン／オフ オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× ○ ○ ×	○ ○ (123-127) ○ ×	
備考		*1　受信モードは、常にマルチティンバー、ポリモードです。		

モード1:オムニオン、ポリ　　モード2:オムニオン、モノ
モード3:オムニオフ、ポリ　　モード4:オムニオフ、モノ

○:あり
×:なし

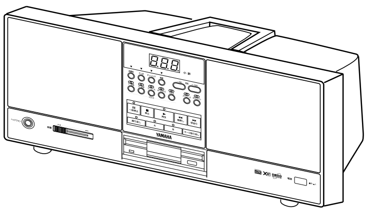
付録

別売品のご紹介

ヘッドフォン HPE-160
¥5,500（税別価格）

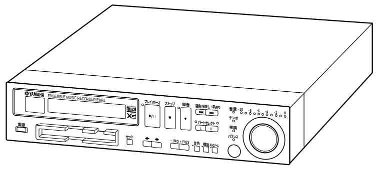


ミュージック データ プレーヤー MDP10（「伴奏くん」）
\58,000（税別価格）



スピーカー一体型のミュージックデータ再生専用モジュールです。「ピアノソフト」（P48）や「ピアノアンサンブル」（P48）をはじめとした幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。クラビノーバと組み合わせて、ソフトを再生しながらのアンサンブル演奏や練習もできます。（P48）

アンサンブル・ミュージック・レコーダー EMR1
¥88,000（税別価格）



XG音源を備えたシーケンサー（録音/再生機器）です。クラビノーバと接続して「ピアノアンサンブル」を再生したり、クラビノーバにない多彩な音色で演奏/録音したりするのに最適です。

仕 様

	CLP-950/950C	CLP-930
鍵盤	88鍵（A-1～C7）	
音源	AWMダイナミックステレオサンプリング	AWMステレオサンプリング
最大同時発音数	最大64音	
音色数	12	8
効果	ブリリアンス（CLP-950のみ）、リバーブ（ルーム/ホール1/ホール2/ステージ）、エフェクト（コーラス/フェーザー/トレモロ/ディレイ）	
ボリューム	マスターボリューム	
コントロール	デュアル、スプリット、メトロノーム、トランスポーズ、タッチ（ハード/ミディアム/ソフト/フィックス）、各種ファンクション	デュアル、メトロノーム、トランスポーズ、タッチ（ハード/ミディアム/ソフト/フィックス）、各種ファンクション
レコーダー	2トラック録音/再生、テンポ、シンクロスタート	
ペダル	ダンパー、ソステヌート、ソフト	
デモ	各音色デモ曲、ピアノ曲50曲	
付属端子	AUX出力端子（R、L/L+R）：出力インピーダンス600Ω、AUX入力端子（R、L/L+R）：入力インピーダンス10kΩ/入力感度0.26V、ヘッドフォン端子×2、TO HOST端子、MIDI端子（IN、OUT、THRU）、ペダル端子*1	
メインアンプ	60W×2	20W×2
スピーカー	13cm×2、5cm×2	16cm×2
定格電源	AC100V、50/60HZ	
消費電力	70W	35W
寸法［間口×奥行き×高さ］（　）内は譜面立てを立てた場合	1372mm×504mm×843mm（1372mm×504mm×1028mm）	1370mm×501mm×843mm（1370mm×501mm×1030mm）
重量	68kg	50kg
装備	キーカバー、譜面立て	
付属品	高低自在イスBC-15(CLP-950/950C)、専用イス(CLP-930)、ヘッドフォン、保証書、ご愛用者カード、取扱説明書（本書）、クラビノーバで弾く名曲50選（楽譜集）	

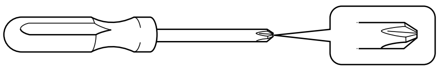
・仕様および外観は改良のため予告無く変更することがあります。
*1 CLP-950のペダル端子は、外側からは見えない位置にあります。

付録

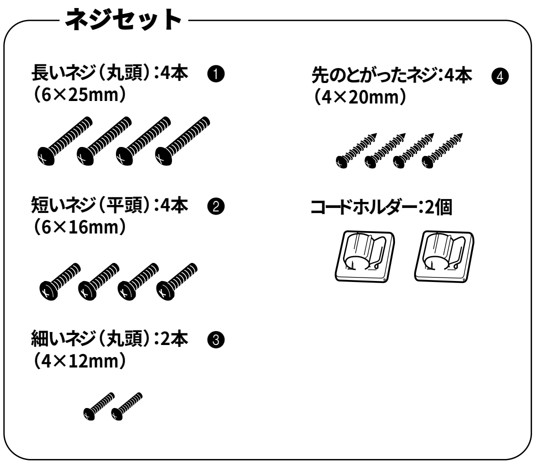
CLP-930の組み立て方

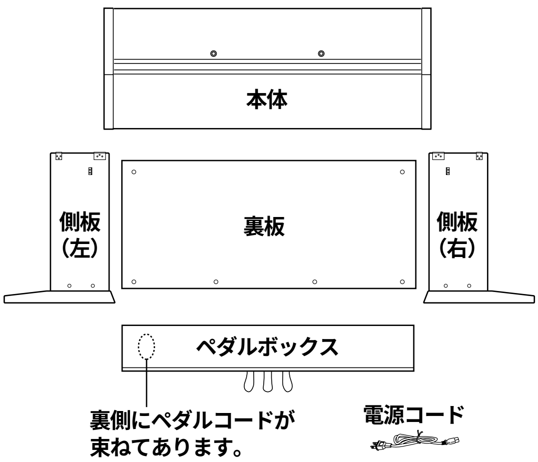
- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

プラス（+）のドライバーを用意してください。

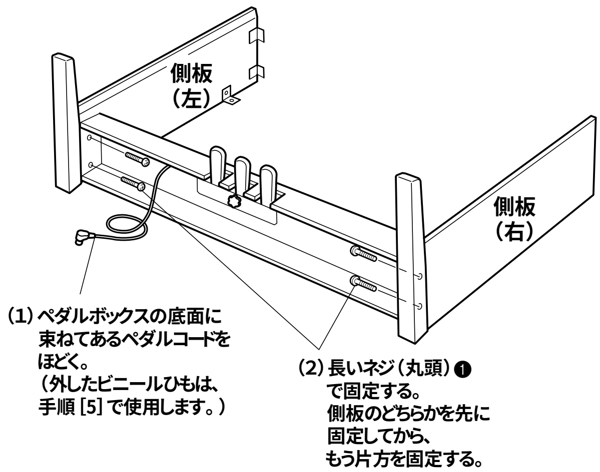


下記の部品を使用します。組み立て手順に沿って順番に部品を取り出し、ご使用ください。

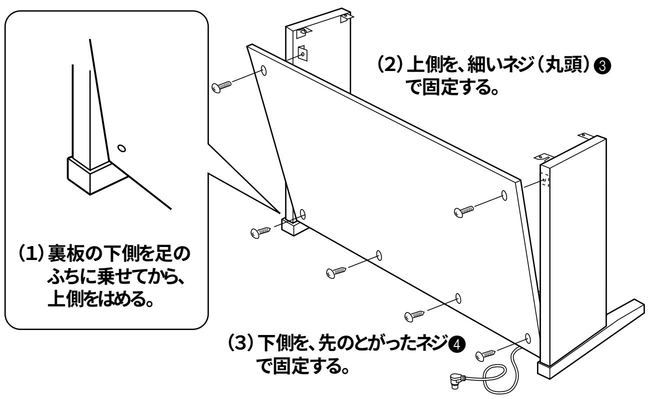




1 ペダルボックスを固定します。



2 裏板を固定します。

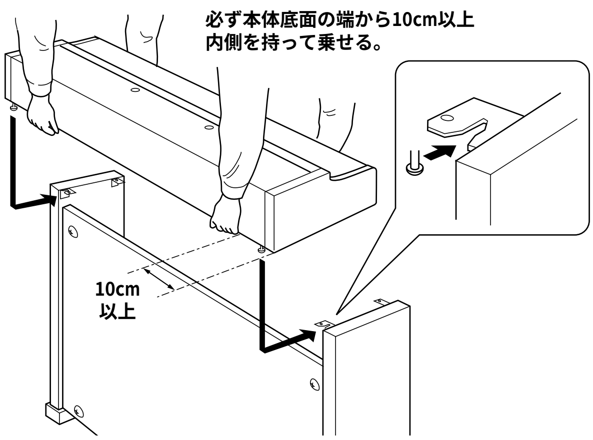


付録

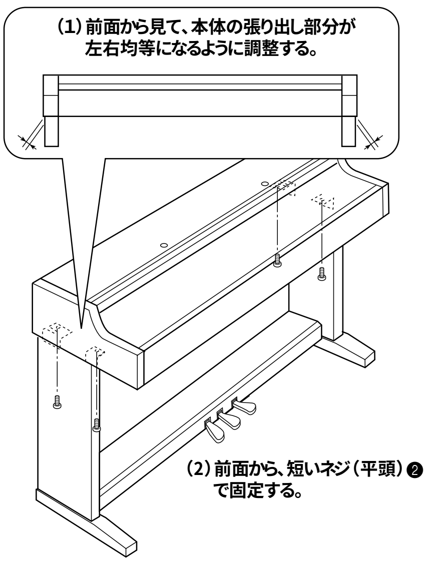
3 本体を乗せます。

指をはさんだり、本体を落としたりしないよう、十分ご注意ください。

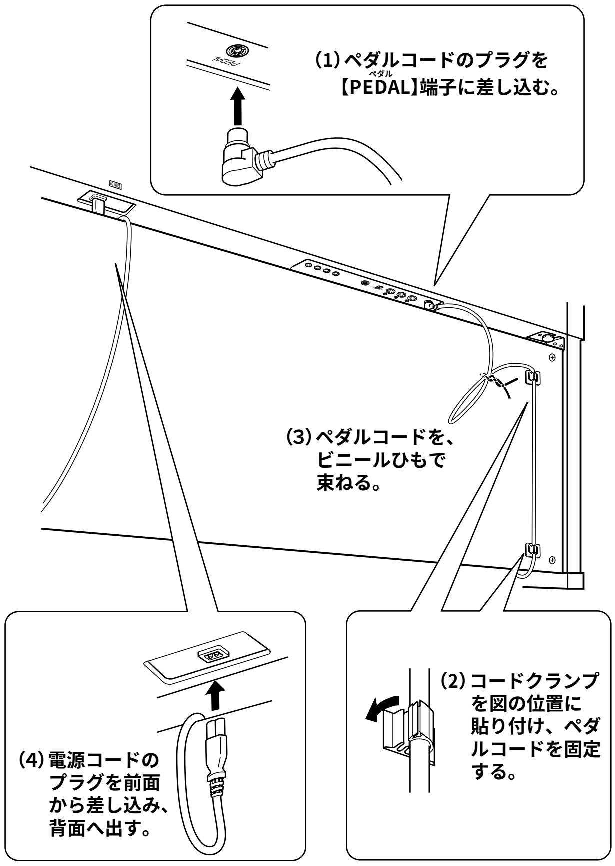
指定した位置以外を持たないでください。



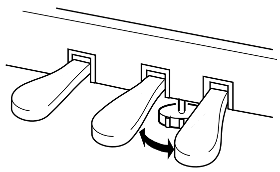
4 本体を固定します。



5 ペダルコードを接続します。



6 アジャスターを回します。



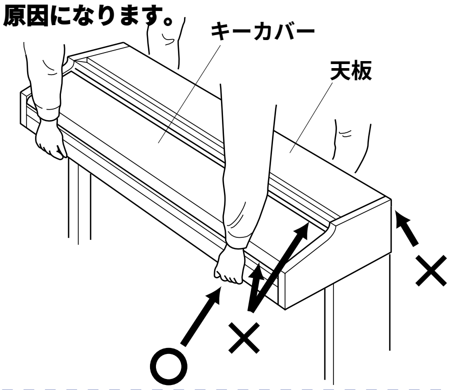
アジャスターを回して、床にぴったりつける。

■ 組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- **部品が余っていませんか?**
  →組み立て手順を再確認してください。
- **部屋のドアなどがクラビノーバにあたりませんか?**
  →クラビノーバを移動してください。
- **クラビノーバがゆれませんか?**
  →ネジを確実に締めてください。
- **ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか?**
  →アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- **ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか?**
  →確認してください。
- **使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらつくなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。**

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。

天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



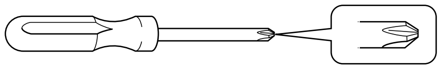
(ご注意) クラビノーバを初めて組み立てた時だけ、鍵盤を保護するひもの取り外しが必要です。キーカバーを開けて(P8)、鍵盤の上にある説明紙をご覧いただき、取り外してください。

付録

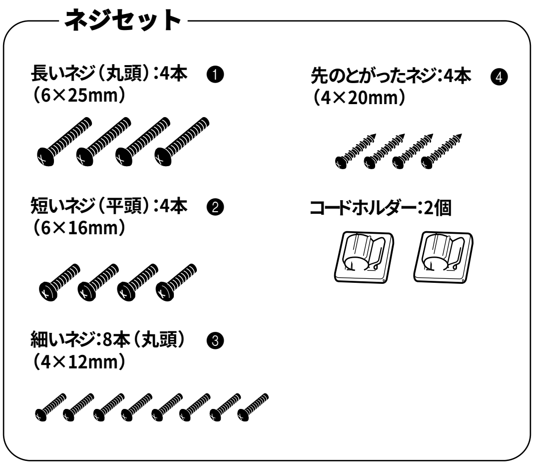
CLP-950の組み立て方

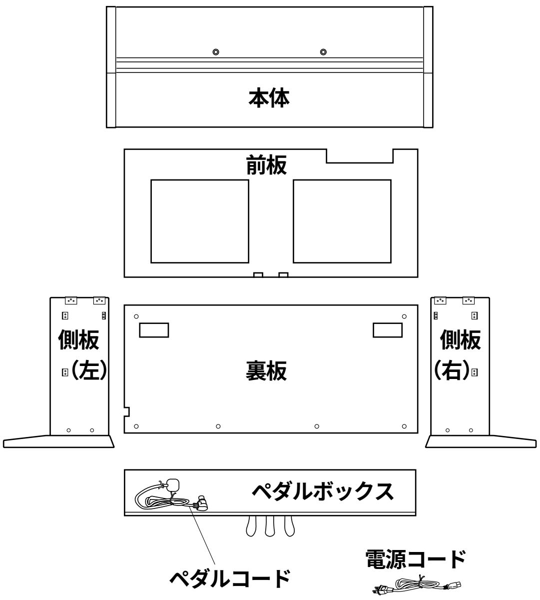
- **部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。**
- **組み立ては、必ず2人以上で行なってください。**
- **ネジは付属の指定サイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。**
- **ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。**
- **解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。**

プラス(＋)のドライバーを用意してください。

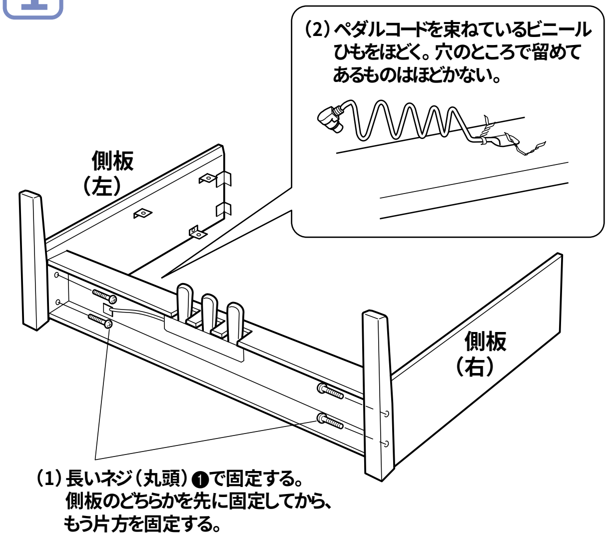


下記の部品を使用します。組み立て手順に沿って順番に部品を取り出し、ご使用ください。

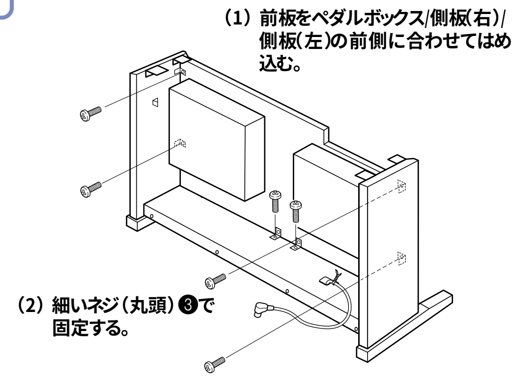




1 ペダルボックスを固定します。



2 前板を固定します。

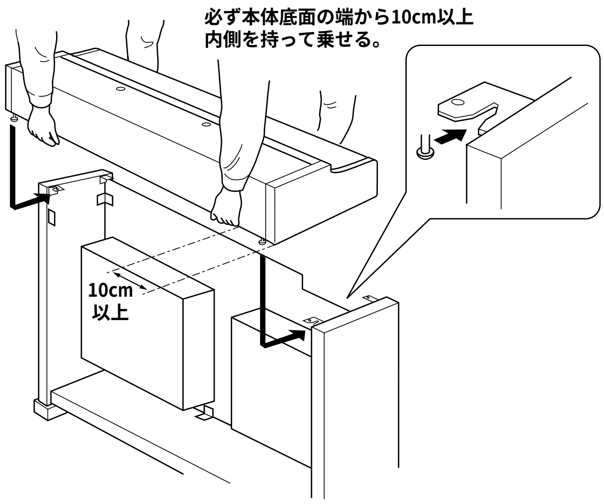


※ 前板と、側板(右)/側板(左)の間にすきまができないようにする。
※ 金具の小さい方の穴にネジを差し込む(6か所とも)。

3 本体を箱から取り出し乗せます。

指をはさんだり、本体を落としたりしないよう、十分ご注意ください。

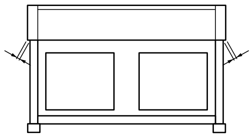
指定した位置以外を持たないでください。

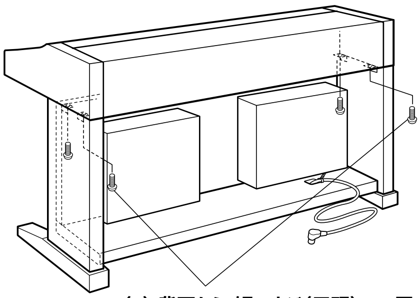


付録

4 本体を固定します。

(1) 背面から見て、本体の張り出し部分が左右均等になるように調整する。

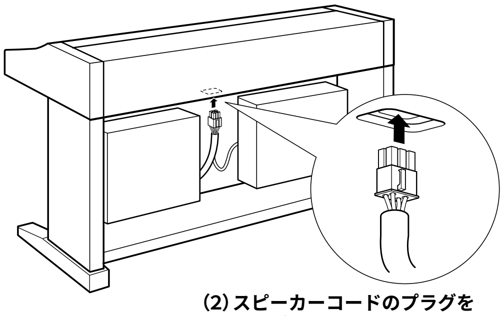




(2) 背面から、短いネジ(平頭)❷で固定する。
※ 前側の金具は、2か所の穴の前板寄りの穴にネジを差し込む。

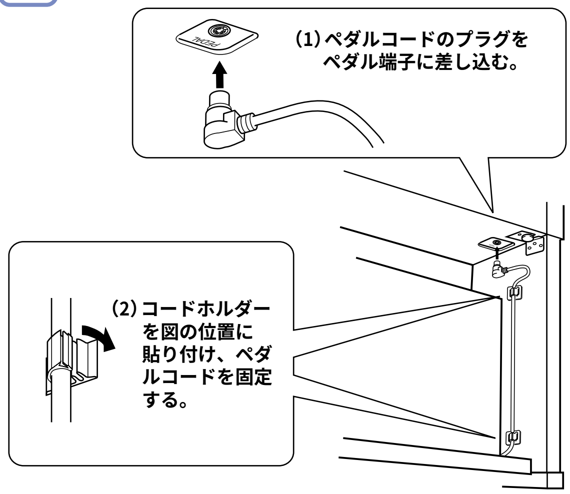
5 スピーカーコードを接続します。

(1) 留めてあるスピーカーコードをほどく。



(2) スピーカーコードのプラグをつめが背面側に来る向きで端子に差し込む。

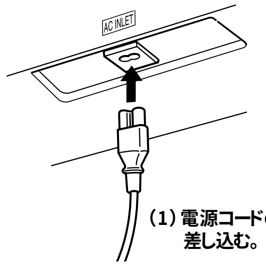
6 ペダルコードを接続します。



(1) ペダルコードのプラグをペダル端子に差し込む。

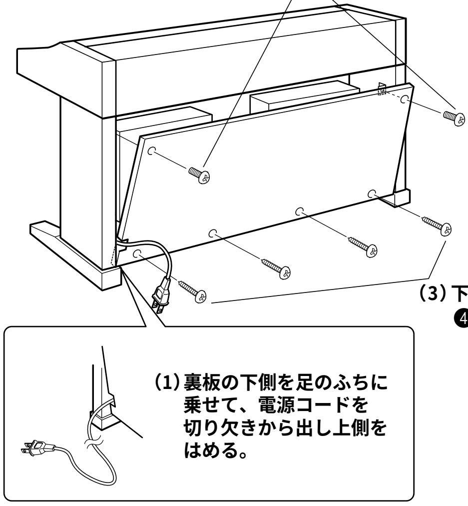
(2) コードホルダーを図の位置に貼り付け、ペダルコードを固定する。

7 電源コードを接続します。



(1) 電源コードのプラグを差し込む。

8 裏板を固定します。



(2) 上側を細いネジ(丸頭)❸で固定する。

(3) 下側を先のとがったネジ❹で固定する。

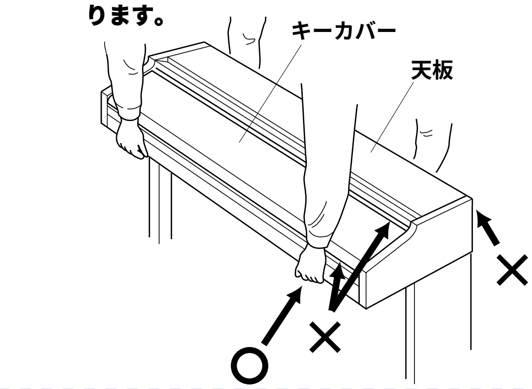
(1) 裏板の下側を足のふちに乗せて、電源コードを切り欠きから出し上側をはめる。

■ 組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- **部品が余っていませんか?**
  →組み立て手順を再確認してください。
- **部屋のドアなどがクラビノーバにあたりませんか?**
  →クラビノーバを移動してください。
- **クラビノーバがゆれませんか?**
  →ネジを確実に締めてください。
- **ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか?**
  →確認してください。
- **使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらつくなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。**

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面と裏板の取っ手を持ってください。

天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、けがをしたりする原因になります。



(ご注意) クラビノーバを初めて組み立てた時だけ、鍵盤を保護するひもの取り外しが必要です。キーカバーを開けて(P8)、鍵盤の上にある説明紙をご覧いただき、取り外してください。

索引

- この取扱説明書の全体の流れを見たい場合は、P3「目次」をご覧ください
- ファンクション項目の説明を捜したい場合は、P31「ファンクション一覧表」をご利用ください。

- 「*」印はそのページの"欄外注"に説明があることを示しています。

数字・ABC順

あいうえお順

あ

か

さ

付録

付録

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6カ月です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。
下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例
ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●修理のご依頼

まず本書の「故障かな？と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。
それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などと合わせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

北海道サービスセンター	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50　ヤマハセンター内	TEL.(011) 512-6108
仙台サービスステーション	〒983-0015	仙台市若林区卸町5-7　仙台卸商共同配送センター3F	TEL.(022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184	TEL.(044) 434-3100
浜松サービスステーション	〒435-0048	浜松市上西町911　ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL.(053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2　ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL.(052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16　ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL.(06) 6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7　(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL.(087) 822-3045
広島サービスステーション	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	TEL.(082) 874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL.(092) 472-2134
[本社]			
カスタマーサービス部	〒435-0048	浜松市上西町911　ヤマハ(株)宮竹工場内	TEL.(053) 465-1158

※ 住所および電話番号は変更されることがあります。

付録

ヤマハ株式会社

北海道支店	〒064-8543 札幌市中央区南10条西１丁目1-50 ヤマハセンター	
鍵盤営業課	☎011-512-6114	
仙台支店	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル	
鍵盤営業課	☎022-222-6025	
東京支店	108-8568 東京都港区高輪２丁目17-11	
エレクトーン・クラビノーバ推進グループ	☎03-5488-5463	
名古屋支店	〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28	
鍵盤営業課	☎052-201-5145	
大阪支店	〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館	
エレクトーン・クラビノーバ推進グループ	☎06-6252-2390	
九州支店	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4	
鍵盤営業課	☎092-472-2153	
電子楽器事業部	〒430-8650 浜松市中沢町10-1	
EKB営業部／国内営業第二グループ	☎053-460-3275	

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

クラビノーバ ポータブル楽器 インフォメーションセンター
受付日：月曜日～金曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00／13:00～17:00
フリーダイヤル 0120-834808

クラビノーバ インターネットホームページ
http://www.yamaha.co.jp/product/cl/

この取扱説明書はエコパルプ（ECF:無塩素系漂白パルプ）を使用しています。

この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

CONTAINS SOYOIL
この取扱説明書は大豆油インクで印刷しています。

V530400 004APAP3.3-02B0